幼兒教育研究雜誌

婦人と子ども

第拾卷
第七號

フレーベル會發行

第拾巻第七號目次

○幼兒の歯に就いて　ドクトル 奥村鶴吉
○保育叢話(承前)　光藤夫人
子供の想像　文學士 倉橋惣三氏談
小兒と冷水摩擦　醫學博士 三輪信太郎氏談
○家庭と和歌　佐々木信綱
日本婦人の不行儀　醫學博士 北里柴三郎氏談
眼の養生　…記者
○洗濯の仕方　…記者
○御伽訓話　記者

本會役員

會長　中川謙二郎
主幹　黒田定治
庶務幹事　飯沼シツ
庶務幹事　池田トヨ
會計幹事　井村クニ
庶務幹事　小關清
會計幹事　大關トヨ
庶務幹事　和田巖
會計幹事　武井綱枝
庶務幹事　山村十野
庶務會計　藤井利埜
庶務幹事　稲田ふく
會計幹事　雨森綱
庶務幹事　下田たか
編輯幹事　和田實

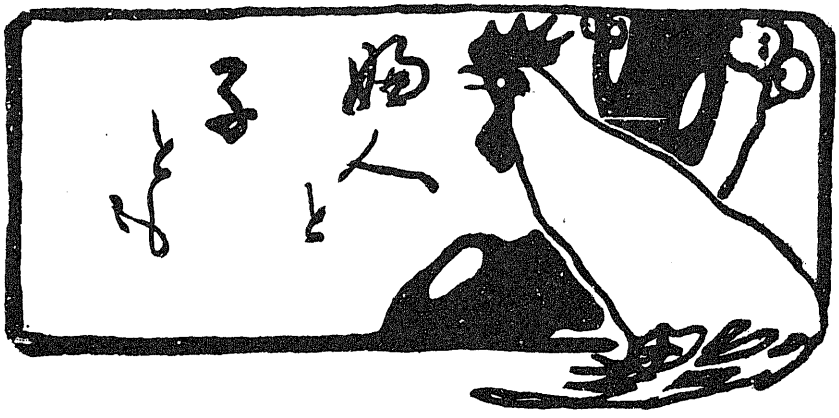
質問規定

本會は讀者の種々なる質問に應じます婦人と子供と家庭とに關する事なら何でもお尋ねなさい。往復はがきか又は返信料封入なら早速に御答します。公衆に有益だと思ふことは誌上で說明します。

入會又は購讀手續　(振替口座東京一七二六六番)

本會に御入會なさらうとする方は會費一ヶ月金十錢の割合で一ヶ年分をまとめて振替貯金へ御拂込下されば直に登錄して雜誌を發送致します。會員にならずに雜誌丈け讀みたい方は此の割合の前金で本會か又は賣捌書店へ御便宜御申込下さい

◎一冊郵稅共金拾壹錢　◎六冊前金郵稅共六拾錢
◎十二冊前金壹圓貳拾錢　◎郵券代用一割增



第拾卷第七號

久方の月の桂も折るばかり
家の風をも吹かせてしかな　（道眞）

あすよりは何をたのみに眺めまし
嵐に枯れし撫子の花　（樂翁）

子を思ふ道にまどひて今ぞ知る
ちゝぶの山の深き恵を　（小澤蘆庵）

幼兒の齒に就いて

ドクトル　奥村鶴吉

私は始めて本會に罷り出た次第で御坐いますが實は先日幹事の方から何か齒の衛生の事に就いて話す樣にとの事で御坐いました。そこで今日は乳齒と大人の齒の事に就いて大畧をお話することに致しました。此の齒牙については種々の方面から御承知の事と存じます。齒牙とは如何なるものとか其の働きに就いてなどいろ〳〵の問題がありますが余り長くなりますから申上げぬことに致しまして今日は乳齒と永久齒との關係に就いてお話申すことに致します。それに就きましては先づ齒牙の名稱をお話申して置かねば御解りにくいかと思ひますが齒牙の名稱には吾々專門の方では特に種々の名稱を用ひてゐますがそれらは普通に必要が御坐いませんから略しまして通俗の名稱に從つて申上ますが御承知の樣に人は一生の間に二組の齒牙が出て來ます一は乳齒といつて生れて六ヶ月位から發生するもの一は永久齒といつて六才頃より發生するもので此外に俗にいふ親知ずといふのがありますが之は二十才前後に發生いたします、乳齒は暫時の間の働きを致しますので後に殘らぬところから大人の齒と何等の關係もないものと思つて居る人が多くて乳齒一般の衛生又は其齲齒についても多くは等閑にするもので御坐いますが之は永久齒に多大の影響を及ぼすのみならず齒牙發生の際發熱疾病等を招く憂が御坐いますから充分に注意しなければならぬことで御座います。

先づ齒牙の名稱を申上て置きます。上の繪(畧す)に書きましたのは乳齒で下の方は六才頃の狀態を畫いたもので靑く彩てあるのは凡て〻二十個ありましてつまりこれだけの乳齒を持つてゐるわけで御坐いますこの內中央にあるのが中切齒次ぎが側切齒次ぎが犬齒それから第一小臼齒第二小臼齒といふ名を與へてをります。

これに對して永久齒は各片側に中切齒側切齒犬齒第一小臼齒第二小臼齒第一大臼齒第二大臼齒次ぎに親知らずといふ齒があるので御坐ます。

[illegible]知の通り生れて六ヶ月か七ヶ月になりますれば[illegible]めてこの乳歯の中切歯が發生して來ます。それから九ヶ月位經ますと側切歯が出て來ますし二ヶ年位たつと第一臼歯が出て次ぎに犬歯第二臼歯が出て參りますこの順序は永久歯のときも又同じいので御坐ます。かうして生後二ヶ年半か三ヶ年の頃には凡べての乳歯が口腔中に出てしまひます。兎に角生後六ヶ月から三ヶ年の間に乳歯が生え揃ふことになります。

此れから永久歯は乳歯がことごとく出てしまひますと中切歯、側切歯犬歯などい ふ順に並んで發生しますが第一大臼歯は頭の部分だけ出ててをります。凡べて永久歯の内一番に出て來るのは此第一大臼歯で御坐いますが多くは之れを乳歯とよく間違へて誤つて齲歯となし又は拔きとること等が御坐いますが之れは最も注意すべきことで御坐います。此の第一大臼歯は大黒柱ともいふべきものでもし誤つて之れを拔きとるときは歯並を惡くし延いては之れが遺傳して下顎骨が小さくなつて奇形を生ずる樣になります。扨てこの第一大臼歯をどうして見分けるかと申しますと之れは必ず第六番目の大きなので御坐います專門的に申しますれば見分けの方法も御坐ますが素人では數へて見るのが一番たしかで御坐いますで大抵六才位になつたらよく氣をつけるやうにしなければなりません。即ち六ヶ年になりますと第一大臼歯は頭を出して參りますが暫くの間は少しも口腔内に表はるる形蹟が御坐いません。それから更に進んで生後八ヶ年頃になりますと中切歯が出て參りますこの場合には乳歯が無くなつて其の後に生えます。九ヶ年位になりますれば側切歯がでて十才ごろになれば第一小臼歯がようやく頭を出して凡十一才頃になれば全く出て參ります、此の際尤も注意すべきは第一小臼歯が出て參りますには乳歯の中に始め頭のみ出すもので御坐いますからもし堅い物などを噛み或は乳歯に虫がつきますときはその發生を害することになります。次に十一才か十二才頃になると犬歯が出て續いて第二小臼歯が出で十二才より十四才の頃に第二大臼歯が出て凡そ十六才以上

二十才前後までに俗にいふ親しらずといふのが生えて茲に始めて總べての永久齒が生え揃ふことになります。斯樣に永久齒の發生する順序を見ますと飛び〳〵に出て來る結果乳齒と永久齒とを間違へて誤つたことをすることがまゝありますから其の交換する時をよく御承知下すつて充分御注意なすつて間違のない樣に致したいもので御坐います。

次ぎになぜかように乳齒と永久齒と交換しなければならぬかと申しますと、先づ人體全部について考へて見まするに手足其の他何れの部分も一つとして變換するものは御坐いません然し之等は皆次第に發達して各其の用を便ずるもので御坐います。然し齒牙は次第に發達するといふ樣なことがなく乳齒は單に小供の時の用をなすのみで御坐いますが永久齒は大人の顎骨に生えて堅きものを噛み碎くといふ必要な點を持つて居るので御座います。實に造化の妙をえたことと思ひます。斯樣なわけで御坐いますから乳齒が自然にとれて永久齒が出やすい、狀態になるので御坐いますが其の乳齒が自然にとれて後から永久齒がかわるといふことは極順當に進行すべきものであります。何ういふ作用で是が順當に行くかと云ふと顎骨の中に永久齒が發生いたしますと云ふて其尖端は乳齒の齒齦を刺戟して之が原因となつて乳齒は根元より段々と溶解吸收されるので遂に其頭部が拔け落るのであります。若其の人が全身の營養が足りないとか、或は口腔中の衞生が不充分だとか、乳齒が病氣に懸つたとかいふ場合には永久齒が出樣と思つても出ることが出來ない從つて種々の故障が生ずるので御坐います。まゝ乳齒の根が存在することのある理由は大抵乳齒の衞生を等閑にした結果齒隨が腐つて齒牙が無生物となるため根を溶すことが出來ないので御坐います。故にもし乳齒を等閑に致しますときは今の樣に根が溶ぬところから永久齒は他の部分に生えたり或は發生をさまたげられて遂に生えない樣なことになるので御坐います此點より考へましても大に注意すべきことで御坐います。殊に先程も申上ました樣に第一大臼齒が六才頃出て來る處から多くの場合母親も之れを知

[illegible]の[illegible]います。そうすると[illegible]と外見に於いて左程の違のないところから多くは之れを乳歯と間違て其の衛生に注意せずに放任して置く爲めに大抵は之を齲歯にしてしまふのであります。ところが專門家の方より考ふれば第一大臼歯は尤も重要なもので上顎下顎の大黒柱ともいふべきものです。何故かと申しますれば第一大臼歯は歯牙の中尤も大きく尤も堅牢なもので第一大臼歯の上に加はる力が一番大きもので御坐いますでもし之れが病氣に懸りますときは物を嚙むといふことが出來ない樣になります。種々の患者に就いて調へて見ますると其の嚙む力に強弱が御坐いまして其の相違は又非常に大なるもので御坐いますが其理由は此歯の健否に因るので御座います。其の他第一大臼歯が必要なる理由は若し第一臼歯が病氣のため脱き取られたとするときは恐るべき結果を生じます。夫れは第二臼歯が前の方に發生するので御坐います。丁度生後十三年位の場合に於いて第二臼歯が出ようとするとき第一臼歯が脱れたとすると第二臼歯が前方によるから後部にも[illegible]が不[illegible]しなので[illegible]の[illegible]が本充分になつてきます、もし之が遺傳さるるときは骨の奇形を生ずることになります。然るに世の人は多く此の理を知らぬ處から開却に附せらるるので御座いますからよく御注意下さらんことを望みます。一寸此の第一大臼歯の見解方を申上ますとさまで困難なことでは御坐いません。

第一は大抵子供の歯牙は契形をしてをりますが第一大臼歯は臼形をしてをります。第二には前のと比べて大いさが違ふ第三には並んでゐるとしますれば數へて第三番目にあるのが第一大臼歯である又熟練した目で見ますれば前のは青白色後のは少し黄色を帯びてをります。

猶注意して戴きたいのは永久歯が發生の際誤つたため根が殘るときは往々歯齦を破ぶつて出てくることがありますが多くは左程懸念すべき事では御坐いませんけれ共折々唇や鼻に孔をあけることがありますから充分氣を付けねばなりません。

次ぎに注意すべきはよくありがちのことで御坐いますが前にも申上ました樣に永久歯いてゝとき

は飛び飛びに出てくるもので御坐いますからもし早く犬齒を拔きとるときは第一小臼齒が前の方によつて犬齒の位置に生える然るときは犬齒は出處がないため下の方に重つて生える樣になります俗に之れを八重齒といつてをります。之れはつまり余り早く犬齒を脫きすぎた結果で御坐いますから此の犬齒に就いても充分注意をして齲齒にかゝらぬ樣にしなければなりません。

保育叢話（承前）

光藤夫人

虛榮心の恐るべき害

虛榮の萠芽を摘み取ることについての意見は、いささか前述べましたが、實に此の世を擊つて虛榮の夢にあこがるゝの時自ら戒めて、此の害毒を避ける工夫が大切でありますが、とりわけ一家の主宰者一家人感化の中心たる母親より此の念慮を驅逐して自ら心を潔ふし質實な健全な氣象を養成して、我身先つ目につく服裝よりすべて日常の身の廻りのもの、皆虛榮をさり己が一言一行にも意を用ひて、只管虛榮めきたる事のなき樣、注意することが肝要であると思ひます。

魏より美を好むは人の情なり、不淨なるものより清淨なるものを愛するも亦人情自然なり、故に誰れにしても衣服にしてからが、汚ない衣服より美麗なものを好み、クスミたるものより華美を好むに至るは止を得ない事でありますが、其處が氣の用ひ所意の錬り所であると私は思ひます。

魏より美を好むの天性あり、以て瞬榮に流れ易いのであります、其の時其の舜時、虛榮に流るゝを防ぎてさて醜より美に移る事が大切ではありますまいか、即虛榮とは讀んで字の通り徒らに外見を張るの所、アレモコーせては美しく見えない、コレモコーしないと華かでないと只モー實を去り外見にのみ心を配るのであります。同じ醜より美に移るにしても、其の外見を第二におき只其の實質に重きをおいて、醜より美に移りましたならば、何の害が伴ひませう、衣服にあれ器具にあれ、家

壓にあれ、携帶品にあれ、皆其の實質を第一審査して然る後に外見を考へ醜より美に、不淨より清淨に移りましたならば、之れが正しい進歩でありまして、何人も其の害を受けるものはありますまいと思ひますが、いかゞで御座いませうか。

しかるに世人の多くは、殊に女の多くは、就中母たる人までが、先づ外見に着眼して後實質に及ぶといふ風では、害の之に伴ふは自然の數であらうと思はれます、母已に虛榮の中心となりて、其の兒を敎養する樣になりましては、家人中殊に芽はえの樣な幼男幼女の之れが感化を受けて虛榮に富んだ子女となるのは必然の結果であらうと信じます。今現に私の知れる人の中でもかゝる害を其の兒に及ぼして尙すこしも悟られざるお方があるとか、ほのかに聞きましていとゞ氣の毒の感じに堪えない樣なのもあります。

或る所に先づ中流の生活をして、何不自由なしに此の世を面白お可笑く暮して居る佳人がありまず、三千の寵愛を一身に集むるといふ楊妃姫には及ばずも、蕩つしたゝらん如き眼光の何となく人を引付ける力ある。しまりし口に愛らしく小柄の美人で一人娘の我儘一杯に育てられたる節には、其の平素の行によく現はれますが、其れでも親御が當時の敎育は受けさせられた甲斐がありまして可なり學藝も出來ます、マー女子として普通の人で、よくもなくわるくもないのでありますから、養子も相當な位置に身を入れて居られます、其の中に又一粒種子の愛孃がありますが、マー何不足ない身分、綺羅を飾りて下女を連れての學校通ひはたの見る目羨しいと馬鹿な人でなくつても思ふかも知れませぬが、幸か不幸か、御兩親がしかも敎育者で有福で、其の間に育ち給ふ孃の如何に天受の幸福を一身に集め給ふと羨み給ふ世の人よ。

母の感化の偉大なる、身は敎育界にありて人を指導する天職を帶び、其の美しき魂はマー虛榮の權化とも見らるべく出來得る限りの力を此の虛榮の爲に費して、少しも耻とせざるはまだしも、却て得意氣に人に誇りてヤレ着物がドーノ、それ子供の洋服がどうのと心をいらだち居らるゝとかアヽ、此の一人孃の將來は豫言者ならぬ私には少し

も解りませんか、いや分つても發表は出來ませんが、現在の在校中の成績はどうかと申しますに成績はよろしい相で大低な學科がよく出來ます相で御座いますが、肝心要な其の品性の劣等なる、受持教師をして窃に嗟嘆の聲を洩させるといふ事で學校唯一の虚榮の女生徒は先指を此女兒の上に屈せられて聞人をして眉をひそめしめますとか。

無心な此の白糸のやうな愛兒の口より先生の質素な服裝よりか我が母様の華美なのを賞讃し、先生の銀側時計より母様の金側時計がいかにえらくも尊くも見えるのでありますか、先生の頭の飾まで皆此の兒の口よりけなされて、其の美しからざるを冷笑さるとか、世界廣しといへども我が母君父君ほど立派なものはないと、いとゝ信仰の念の強く、先生の教訓も半は母様の惡感化によりて、消されて仕舞ふとはいかに其の感化の強きかゝ分るので御座います。

此の幼嬢は將來如何になり行く事が、今の順境で帆を擧げて行く間は目前さしたる障碍もあるまじと存じますが、それでも已に學校の教職員から拵

余しものにされ、他の友人より嫌はるゝに至りては、實に寒心に堪えないので御座います。

ア、世に子を育てらるゝ母様よ、人の子を指導さるゝ女教師とか言はるゝ人よ。女子であるからとて何も流行の虚榮を遂ふの必要はないのであります、否自ら戒めて且つ反省し且つ恐れて此の一世を敝ふ虚榮の黒雲を打ちはらふ勇氣を鼓してせめてもの事我が子を虚榮に陷らしめぬ樣、心掛く事が切に急務ではありますまいか、そういたしますには前述の樣に醜より美に移るの時よく反省し。反省して果して自らは其の實質に重きをおけるか外見に重きをおけるかを判斷して苟も心虚榮に傾けるの時は恐れ且つ戒心して其の惡風より脱するの工夫をしなければなりません。要は只母の心一つにあるのであります。

子供の想像

文學士　倉橋惣三氏談

今回私も當フレーベル會々員の一人に加へて頂きまして、皆樣と共に幼兒の爲に盡し又研究することの出來ますのを仕合に存じます。幼稚園のことはフレーベル以來既に久しき年月を經ましたが今日なほ研究すべき問題が澤山殘つて居ります。然るに一方には既に幼稚園のことに反對して、其の不必要論を稱へる人もある樣であります。私共はいよ〳〵此の問題の爲に大に研究をしなければなりません。

そこで今日幼稚園教育の根本問題は何であるかと申しますると、隨分いろ〳〵の重要問題が澤山ありますが、私は之れを二つに分けて、教育制度上の問題と保育法上の問題とになると思ひます。而して制度上の問題としては一般教育上に於ける幼稚園保育の意義を明かにすること、從つて現に色々議論のありまする處の幼稚園の社會的職能を明かにすることが急務であります。次に保育法上の問題としては、フレーベルの考へは實に立派なものでありますが、時代を經た今日の心理學及教育學を基礎として、考へれば、更めもし、補ひもする必要のある個所も少くありますまい。即ちフレーベルの理想を今日の進歩した學理を以て如何に完備のものたらしめるかといふ研究が必要と思ふのであります。而して此の兩問題の兩方に就て考へることは、餘り多くの時間を要しますので、今日は第二の、即ち保育上の問題殊に其の心理學的基礎のお話だけに限ろうと思ひます。

私は幼稚園保育の教育心理的基礎は兒童の想像と疲勞との二問題の研究を最も重要のこと、考へて居ります。分けても幼兒の疲勞に關する充分の智識を基礎としない保育は非常に危險なものであります、近來幼稚園教育に反對する議論の中で、衞生的方面の論は別として、教育的方面からの反對論の中心は實は此の疲勞問題に歸すると言ふてよいのであります。之れはいつれい教育に於ても大切いことでありますが、幼稚園期に於ては殊に重

要の問題であります。私共は何事でもつい自分を尺度にして物を考へる傾向がありますが、教育の實際が被教育者たる兒童の尺度を顧慮せねばならぬことは申す迄もありません。そうでないと吾々が所謂熱心なればなるだけ、兒童を害する樣な妙な結果があらはれます。心身發達のまだ弱い幼兒に對しては、殊に此の心配が大であります。處が之れは重要なる點に於ては最も大でありますが、併し之れはいはゆる保育上の注意の消極的方面であつて、私共の手綱をひかへる方の注意でありますが、保育の積極的注意、即ち進んで幼兒の精神の發達を誘導するといふ側では、兒童の想像作用を明かにすることが第一の要訣であります。疲勞問題のことは他日の機に讓つて、今日は主に此の想像作用の方面のことを考へ度く思ひます。

想像作用は人間の精神中の一部の作用の如く考へる人もあるかも知れませんが、實は精神全體の働きであります。殊に幼兒に於ては、是れが著しいのでありまして、彼等の精神活動の殆んど一切が想像作用としてあらはれるといつてもよい位であります。而して想像の作用は、心理學上之れを二つに分けて、一つは自然に吾々の精神に生ずる自發的想像作用、一つは有意的に起る構造的想像作用であります。大體に就て申しますると、吾々成人の想像は主に後者でありまして、普通に美術家や詩人小說家等のことを想像に豐んだ人といふのは、つまり構成的想像作用のことであります。處が吾々自分がそうである爲に、子供の想像といふ時にも往々にして構成想像の如く解し易いのでありますが幼兒の想像は、實は自發的想像の方が多いのであります。殊に極く幼い子供ではまだ有意的精神活動力が極めて稀で、殆んど皆自發的想像であります。而して、想像の發達上、此の主として自發的想像の時期から次第に構成想像へ進んでゆく、其の過渡の時期、遷移の時期が、即ち丁度四歲から六七才頃の幼稚園時期に相當するのであります。想像發達の研究として心理學上最も興味の多い時期なのであります。

幼兒の想像の表出の第一は遊戲であります。兒童の遊戲は御承知の如く、兒童の精神生活全體の表

出でありますから、特に想像に限つたことではありませんが、遊戯の通有性として想像は主なる部分を占めて居ります。構成想像も勿論ありますが自發的想像も最盛に行はれます。所謂遊戯の幻覺と申すのが即ち之れであります。一般に何々ごつこと名のつく遊び、殊に人形遊びに於て之れが著しくあらはれます。茲に人形遊びと申すのは極く廣い意味で申すので、必ずしも人の形には限らない、無生の玩具を生けるものとして取扱ひ遊ぶのは、一方に生けるものではないといふことを知つて居ながら、尙生けるものゝ如く思ふといふ所に、即ち遊戯の幻覺が起つて居るので、自發的想像に他ならないのであります。此の他、花にせよ、石ころにせよ、殆んどあらゆる自然物に生命を附與するといふ兒童の豐富なる自發的想像力は誰れもよく知る處であります。而して之れ等の自發的想像力と同じ樣のことが詩人の構成的想像力に行はれて居る譯であります。

次は遊戯の如く外からは分りにくいことでありますが、外國で「晝の夢」と稱して居る處の現象があります。成人でも時々將來の空想をして、いろいろ當にもならぬ、ありもしないさきゞのことなどを考へることがありますが、幼兒の精神内には之れに類することが多く行はれて居ります。只年齡により其の内容には異なる處がありますが其の空想の量に於て、度に於ては兒童の方が成人より勝つて居ります。之れはスミスなどの研究によつてよく分つたことでありまして、健全な兒童にも常に存する普通の現象であります。

次に、兒童の想像性の尙著しい例は、「想像上のお友達」といふ現象であります。即ち現實にはありもしないお友達が想像の產物として出來て、兒童は之れと交り談話するのであります。之れは前に申した「晝の夢」の度が強くなつて、いはゞ空想の凝固體としてあらはるゝこともあるし、又單獨に普通の想像的所產であることがあります。此の事についてはいろゝ記載がありますが、丁度最近の米國教育雜誌にスウェットといふ人が珍らしい例を發表して居ますので、それを御紹介し、旁々兒童の「想像のお友達」の本實をお話すること

にしよう。

其の子供は女兒でありますが、凡そ三年八ケ月の頃から此のお友達が出來て、初めは自分の名をつけてCと呼んで居ましたが後には「私の孃や」(my little Girl)と呼ぶ樣になりました。丁度三歳十ケ月の時、此の兒は獨りで床の上へ座して、獨言のやうなことをいつて居ました。「皆んな、いけない兒なのよ。Bさんも、Aちやんもいけないの」と言つて居ますので、誰れとお話してゐるのか尋ねましたら「私の孃や」と答へました。此時から此の癖が始まつたのであります。それから、三週間程經て後のこと、此の兒は斯ういふことを言ひました。「私の孃や」がお家を出て往來へ出たがるから縛つて置きましようと。即ち大に客觀的關係をあらはすと共に、道德的態度が出て居るのであります。そして此の道德的態度は、次には「孃や」の方から子供を叱るといふことになりました。即ち丁度滿四歳になる二週間程前のことでした。食事の時何かお行儀の惡いことがあつて、次の室へ獨りで座らされて居ると、急に泣き出した。お母さんが行つてどうしたのかと聞いて見ると、「私の孃や」が出て來て私の足を叩くのですと答へた。又滿四歳になる三日前のこと、食卓について居て其の子供が急に泣き出した。何故かと尋ねて見ると「私の孃や」が椅子から引づり落そうとするのだといひます。それから段々調べて見ましたら、子供が自分で頂いたパンを食べて仕舞つて、テーブルの上の他のパンをも取ろうとした。手が屆かないからテーブルへ乘りかゝる樣にして取ろうと思つたすると、其の刹那例の「孃や」があらはれて、ぐん〳〵足をひつぱつたといふのであります。即ち所謂良心の責苦に他ならなかつたのであります。其の他いろ〳〵のことがあつて、五歳の頃からは「孃や」のあらはるゝことが極く稀になりました。而して、此の女兒は身體も精神も健康な普通兒童でありますから、此の現象も病的現象では決してないのであります。只多少珍らしい著しい例ではありますが、殊に特異な現象ではないのであります。

以上述べましたのは、即ち兒童の自發的想像界の

狀態であります。次に之れが段々發達して純構成的想像の時期に至る間に、過渡期として、半自發的、半構成的想像の狀態があります。

即ち幼稚園時期の頃になると、子供の心に聯想の作用が盛に起つて來ます。しかも其の聯想は成人の場合と違つて非常に粗奔なものである爲に、聯想といふよりも想像といつた方がいゝ樣な狀態に富んで居ります。其の想像的聯想を二種に分けて無生物の運動を生物の運動へ聯想することゝ、無生物間互の類似點から聯想することとに見ることが出來ます。而して、その前者は前に申しました通り、假令ば人形遊び等に於てあらはるゝ遊戯の幻覺と同じ樣のことですが、そこへ多少の構成的要素が混じて來るのであります。花に水をかけてやるのに「花が喉がかわいてるでしようねえ」といふとか、風に搖いでる樹の前へ行つて自分もお辭儀をするとか、月の周圍に星の澤山出てるのを見て、お母さんが多勢の子供をつれて散歩して居る處だといふ如き。即ち一寸見ますと如何にも詩人の構想に成るものと同じですが、兒童に於ては其の構想と自發的想像との中間の狀態に居るのであります。次に無生物間の聯想といふのは、丸ボヤのランプを見てお月樣だといふとか雨樋の水を川だといふ類、即ち吾々成人の智識で見れば其の類似點以外に相違點も多く見えて、其の間におのづからの聯想が起るといふ如きことはない（強いて譬喩をとればとりますが）のですけれど、兒童の粗奔な觀念界では其の類似點だけに著しい聯想が結びついて、雨樋を川といひ、丸ボヤを月といふに些の不思議をも無理をも感じないのであります。即ち換言すれば半構成的半自發的に想像が起るのであります、幼稚園の幼兒が毎日遊んで居る中には此の種の例となることはいくらでもあるのであります。

而して其の次になると想像に構成的性質が次第に增して來て、兒童の工夫といふものがいろ〳〵行はれて參ります。幼稚園の手技なるものゝ大部分は即ち之れであります。豆細工、板ならべ、積木、粘土細工、皆此の構成的想像によつて營まるゝものであります。之亦皆樣の毎日御覽になつて御承

知いことで詳しく申上げる迄もありません。

以上、兒童の想像性の狀態及發達の段階に就て、ざつと申上げたのでありますが、然らば、想像性の敎育的注意は如何なる點にあるかといふことを次に少し考へて見たいと思ひます。昔から敎育者の間には兒童の想像性に就て二樣の考へを懷いて居る人があります。一方の考の人は想像性は正確なる智性の發達を阻碍することが多いから、つとめて禁止した方がよいといふ說。一方の人々は之れに反對に想像性をどこ迄も利用し、また養つて行かうといふ說であります。勿論實際上に於て、そう極端に一方に偏するといふことは、何にしても注意深い敎育家にある筈はないのですが、其の思想に於て此の兩說は歷史上分れて居たやうであります。處で適當の處は、どうしたらよいかと申すと、私は想像性の誘導を——少くも幼稚園時期に於ては、最も必要のことゝ思ふのであります。但し兒童の想像性を過度に擅にせしめた爲に、種々憂ふべき結果の生ずることはあります。フエレーの書いて居ます例の樣に、子供の時からの空想癖が成人になつても愈々昂じて來て、實際社會の現實的生活に少なからぬ障碍を蒙つて居る人はあるのであります。殊に病的空想家に陷るの心配もあるのであります。之れは大に注意を要すべきことでありますが、此の弊を以て直に兒童の本性たる想像性を斥けることの誤りは申すまでもない。一體想像といふ言葉そのものが一概にたわいないものゝ意味に考へられて居るのでありますが、之れは想像と空想とを混じて考へる結果で、少くも構成的想像が決してたわいないものでないことは勿論であるのみならず、心理的に想像の發達を辿り、其の本質を分解して見ると、構成的想像の先驅者たる自發的想像も亦、徒に空なものではありません。想像の働きを分解すれば、其の想像力と想像の材料とになります。而して其材料如何によつて想像の形式又種類は違ひますが、それは實は他の精神內容に伴ふことで、想像力そのものとは別であります。で、吾々成人では其材料は立派なもので又豐富でありますが、其動力たる想像力の强さは子供の方が却つて大きい。從つて想像の產

物たる結果は成人の方が立派ですが、想像生活の活潑、潑剌たることは子供に劣るといふことになるのであります。そこで子供の想像がたわいないのは其の材料となる觀念の貧弱によるのでありますから、想像性の敎育は、如何にしてその材料を供するかといふことゝ、如何にして其の想像力を適當に導きてゆくかといふことになります。而してその想像力が適當に發達し、その材料が豐かに且つ整頓されてゆく處に、いろ〳〵の「子供の發明」が出來るのであります。發明といへば、如何にも大したことの樣に聞えますが、兒童は始終發明をして居るのであります。吾々成人から見れば、つまらない何でもないことが、子供にとつては中々大發明であります、殊に敎育上からいへば、發明の結果よりも其の經路に價値があるので、而して、その發明の徑路なるものが即ち想像力の作用によるのであります、幼稚園で兒童によつて行はるゝ色々のことが、皆この大いなる價値を有して居るのであります。

之れは、主として智性の方から想像の價値を述べたのですが、尙又、之れに隨伴する感情の養成の方面に於て大いなる効果があることも忘れてはなりません。即ち想像は觀念からいへば多少の誤りを含むことが多いのですけれど、其れから生ずる、子供心に經驗する種々の情緒なるものは皆眞實であります。殊に想像の出來てゆく要素の中では感情が主なる位置を占めることが多いのであります、ある感情によつてある想像が生じ、それによつて又ある感情が起る次第であります。即ち感情は想像に二重の要素となつて居るのであります兒童の想像を斥け阻碍することが、此の大切な感情の養成に害のあることは明かなのであります。即ち私は兒童敎育上、想像性の敎育の重要なることを主張したい一人であります。殊に前に申した如く、幼稚園期は兒童に於ける二種の想像の選りかはりの時期でありますから、其の點に於て想像の研究を幼稚園敎育の心理的基礎の一つと考へるのであります。處が更に進んで實際上の注意となると種々のこまかいことが起つて參りますが、其の一つとして考へ度いことは想像性を養成すると

いふ處から、除りに之れを刺激し過ぎたり、又は年齢不相應な想像を要求したりして、「想像の早熟」に陷らしむる樣のことは、最も注意を要することゝ思ひます。詳言すれば、前に申した如く成人と子供とは、其の材料の差によつて想像の性質が違ふのでありますから、同じ想像と雖も、成人の想像をそのまゝ與へることは往々注意を要するのであります。即ち假令はお伽噺等に於きましても、其の内容性質の種類を子供の想像に適したものにすることが大切であります。同じ想像の産物だと申しても、成人の想像なり、又野蠻人の想像なりによつて出來たものが、どこ迄子供に適當するかといふことは、愼重な檢査を要することであります。成る程、神話傳說等の多くは幼稚なる人文の産物で、子供の想像に餘程類しては居りますが、其の文學上の價値、乃至詩的興味は別として純教育的に直に兒童の想像性養成の資料として委く適切なり否やは、更めて考へねばならぬことであります。尤も之れは只一例に申したので、此事に就てのみならず、幼兒の想像性の養成には深い注意を要することが隨分あると思ふのであります而してその基礎は子供の想像そのもの、性質及發達に就ての研究によらねばならぬこと、申す迄もありません。お互に愈々此點の研究を進め度いと思ふのであります。いろ〳〵お話が煩雜になりまして御清聽をけがしました。

●澤村博士發明の食物防腐器

農科大學教授澤村農學博士が今度發明して自家用に供し居らるゝ簡易食物防腐器は中籠ある銅製圓筒にして上端の周緣に溝あり蓋の頂上に小孔あり其下部の端は圓筒の溝に箝まる之を用ふるに圓筒の底に少量の水を入れ食物を皿に入れて中籠に置き蓋の小孔に綿栓を施して之を箝め圓筒を七輪若くは火鉢に掛けて熱する時は蒸氣に依りて食物は殺菌せらる而して蒸氣は蓋に觸れ凝縮して水となり溝中に流れ入りて圓壓を塞ぐを以て筒内の食物は數日間腐敗することなし製發も至つて廉價銅製にて一圓位の由

小兒と冷水摩擦（上）

（於兒童研究會）
醫學博士　三輪信太郎氏談

▲歸依者と反對者　身體强固法の一法として、目下小兒界に行はれんとする傾向がある、皮膚の强固法、冷水摩擦のことに就て私は先づ冷水摩擦は無益であると申したいのであります、歐羅巴に於て冷水强固法の歸依者が、其の効顯として數へ立てゝ居る點を擧げると、冷水摩擦をすると皮膚が强固になつて、感冒に對しての感受性を減ずる、夜間の安眠を得せしむる、或は性質が穩かになると云ふのであります、又之に反對する者の說は冷水摩擦は睡眠が寧ろ不安となり夜間號泣し又感冒に罹り易いと云ふ、此兩樣の說に對し我々は何れに適歸して宜しいか之を斷言することは姑く措き私は哺乳兒に水事的强固法を行ふのは宜しくない、又之が感冒に對しての感受性を反て旺盛にすると云ふ事實は深く心の中に銘して居ります。

▲小兒冷水摩擦の害　我國に於ても、近來衞生思想の普及した爲め身體强壯法の一部分たる所謂皮膚强固法を說くものが多く、從て冷水摩擦に澤山の歸依者があるは申すまでもないが、大人が冷水摩擦に歸依した結果、漸次之を其家族に普及し今では子供にまでも及ぼさうとして居ります、子供と云つても四歲以上十歲前後の子供ならばまだしもであるが、生れ立ての赤兒にまで冷水摩擦をしやうとするものがあり、又之に左袒する者もあり小兒科醫の中にすら哺乳兒の冷水摩擦に贊成するものがある位ですから隨分相當の知識ある方が盛に書物の上などで冷水摩擦を行ふの利を說いて居る、其他婦人の雜誌などに衞生の事を說いてある中には、冷水摩擦が何にでも効があるやうに書いてあります、斯る傾向の中に立ち、私は冷水摩擦を哺乳兒に行ふは、全然害があるから絕對に行つてはならぬと云ふ說を有つて居るのであります。

▲有害の理由　私は小兒の冷水摩擦を惡いと斷言するに至つた動機を茲に述べて參考に供したいと思ふ、即ち私の係り合つて居ります一病家に斯う

云ふ例がありました、それは上流の家庭で學校教育を受けた法意深い若い母親は、一人の健かな男兒を擧げました、其兒は天賦の體格に於ても申分なく、其上に發育も良い、然るに此子供が生後僅か數十月の間に二度加答兒性肺炎に罹つた、是が若し體質上に弱點の在る身體の子供なれば、度々風を引くこともあり、隨て肺炎などを惹起すことは珍らしくはないが前に述ぶるが如き健康な子供が、斯樣な病氣に罹ると云ふのは一考をしなければならぬ、其上母親は極く注意深く、衞生思想にも富んで居ると云ふに至つては其養育の上に缺陷があらうとも思はれない、何が原因であらうかと、始終注意して居りました、處が或時、三太夫殿が私に語るに、冷水摩擦（勿論これは微溫湯であつた）を毎日規則正しく遣つて居らるゝが、肺炎になつても、矢張厲行して居らるゝ、之れが何うもおいたわしいと云ふことであつた。

▲冷水摩擦の方法　世間で冷水摩擦の方法を說くものは多くは規則正しく始めは溫い水から遂には冷水と、一歩を得れは一歩を進め、一旦始めれは止めない方が宜いと言つて居ります即ち前に例に擧げたやうな家庭に於ては哺乳兒に對しても矢張其調子に、毎日水事的皮膚の强固法を試みて居りましたがそれが肺炎を惹起す原因であつたのであります、なほそれに附け加へてお話をしなければならないのは、身體を拭き上げて未だ少し皮膚の赤い時に、一時室の戸を開けて置き新鮮の空氣に當てると云ふことは大變に宜いのでありますが、前に申した例の遣り方はこれにも少しく矛盾の點があるのであります、と云ふのは冷水摩擦をした後で、其小供を瓦斯暖爐で溫めた室の內に入れて置いた、と云ふのはこれも亦肺炎と云ふ病氣を惹起す原因の一ツになつたのである。

▲瓦斯暖爐　去年あたりから新に輸入されパイプのやうなものを用ひて調子好く室內を煖くする瓦斯煖爐（煙突は要らぬと云ふことを瓦斯會社は言つて居る）それで室內を煖めるとなか〳〵室內が乾燥します勿論ホンの申し譯ばかりに水を上に載せて置きますが、あんなものは何にもならない、其上一方には又炭火を用ひた火鉢などもある、こ

れは衛生上甚だ宜しくないそれ故に私は瓦斯煖爐を自分では用ひて居るが決して衛生的に完全したものとは思つて居ない瓦斯煖爐の傍に子供の寢床を取るなどは最も宜しくないのであります、子供を暖かにすると云ふことは極めて宜いが、時々爾う云ふ思ひ違ひから子供を病氣にして仕舞う例が少くない、是等のことは少しも管はぬ家の子供ならば寒い時戸外に出て居つても

冷水摩擦をしても左程の影響を蒙るやうなことはないが大事に保護して殊に新式の瓦斯などを以て室を温め、愛兒をして益々強固ならしめやうと力めつゝある母親の手に育てられて居る、それが却て肺炎の原因をなしたのであります是等の實例に徵して見ても誰れか冷水摩擦は小兒の爲に宜しくないと云ふ說を唱へる人が有りさうなものと今日まで默つて見て居りましたが、今日は本會の御依頼に因て一場の御話をすることゝなりましたから取り敢ず此事を申し上げたのであります。

▲年齡と體質の關係　併しながら私は全然冷水摩擦を排斥するのではない冷水摩擦も施す方法が宜しければ好い、過ると前に申したよりモツと酷い害を起します、それ故に冷水摩擦は先づ行はぬ方が宜いと云ふことを斷言して差支ないと思ます、若し身體強固法を行はうと思ふならば、その子供の年齡體質を顧み外界の刺戟に因て惡い影響を受けぬ樣にしなければならぬ、而して又規則立つた強固法は何う云ふ仕方に因て行ふかと云ふに、それは水の力、空氣の力、其他衣服の撰擇方などに因てすれば其目的を達する事が出來ます、併しながら水の力を借りる處の皮膚の強固法を行ふには滿二年の後でなければならぬ、その方法は一般に言ふ通り温かい時節から始めるのが可い、弱い體質の子供、貧血性の子供、神經質の子供は、此洗滌的強固法に堪へないことはあるから、爾う云ふ質の子供には行はぬ方が宜しい。

▲冷水灌漑法　洗滌的冷水摩擦を行ふには、歐羅巴の書物に據れば、最初は十五度から二十度の微温湯を用ひ、漸次温度を低くし、了ひには汲み立ての井戸の水の温度位にした方が宜い其水を初は布片又は海綿に浸してするのが宜いと云ふけれど

日本では普通の木綿或はタオルで二三分間身體を洗滌し次に乾いた布片で皮膚が赤くなるまで反覆摩擦をするそれから我々は夏になると頭や頸に水をかける、爾うすると大變心持が好くなる併しあれを子供にさせるは不可い子供に向つてあゝ云ふ無法なことをすると毛細氣管支炎と云つて、毛のやうな細かい氣管に粘液が溜り、呼吸が困難になります呼吸氣病に罹つて居るときに、醫者が子供を湯の中に入れ、冷水を頸部や胸部や頭や顏などに灌ぎかけると、子供が愕いてハッと深呼吸をする、その深呼吸の爲めに呼吸が都合好くなつて、氣管の中に溜つて居た粘液物がゆるくなつて、とても治らぬと思つて居た病氣が全治することがありますから一概に冷水の灌漑は惡いとは言へない併しながらこれは或る場合に限つたことで、概して言ふと、子供に冷水灌漑を施しては惡いのであります。

▲空氣に當る事　早朝新鮮な空氣に當てるのは、早朝行つた方が宜い、大人は井戸端へ出て遣るとか、湯殿でするが、子供は室の内で行つた方が宜い、而して其後で必ず空氣の恩惠を受けさせる樣にした方が宜い、天氣の好い風の立たない時は、公園の樣な處へ連れて行き又雨天は勿論曇つた日には窓を開いて良い空氣に當てるやうにしなければなりません。

▲衣服の注意　小兒の衣服は、季節に應じて增減するのは勿論のことでありますが、假令寒い時候の時と云へども、あまり厚着をさせるのは、皮膚を軟弱にする恐れがありますから、成るべく厚着の習慣は附けない樣にした方か宜い又襟卷は絶對に用ひない方が宜い、尙ほ又衣服は上部を薄くし下部は上部より比較的厚くした方が宜い。

▲病氣の時　小兒が熱性疾患に罹つた時、或は百日咳などに罹つた場合には冷水若くは微溫湯の水事法を規則正しくしなければならぬと云ふことに拘泥しないで、一時中止した方が宜い、中絶して再び始めるときは、矢張始めて之を行ふときの心得で、微溫湯から始め、漸次冷水に及ぼすやうにしなければなりません。

▲哺乳兒の外出期　哺乳兒外出の良否と云ふ事に

就ては、屢々尋ねらるゝ問題でありますが、若しも健康の子供であるならばまだ生れて何日間と云ふやうな嬰兒でも、温い氣候の時分、殊に天氣晴朗の日には、外に出しても差支へない但しギラギラする日光が、子供の上に直接に映し込み、或は地を拂ふ風の持つて來る砂塵が子供の目に吹き入ることのないやうに注意して、帽子を被らせるか又は紗のやうな布を顔に當てるとかして若干時間新鮮な空氣に觸れしむるは差支へないばかりでなく、却て宜いかも知れない、但し梅期雨の濕潤な時は外に出さぬ方が宜い、又冬期は晴天の折、日中に防寒の準備を充分にすれば、一時間以内外出は許しても宜い、なほ夏盛暑の候は氣候の好い時とは自ら狀況が違ひます、兎に角身體の強固と云ふことは獨逸語で言ふと身體をアクヘルテンすると云ふことで、一年以内の子供が身體をアクヘルテンするのは少しく早計に過ぎる、恰も苗の長ずることを望んで、其苗を拔き出すと同樣、利はなくして害の甚しいものであることを考へなければならぬ。

▲滿四歲頃に於て頻に唱導する處の冷水摩擦を子供に行はんとするには、滿四歲頃が宜い、それも夏の候に徹温湯で身體の一部分から始め、漸次冷水にして全身に及ぼし、冬の寒い時になつても自重して持續するのが宜い、小兒が十歲未滿になれば、冷水浴も亦川や海に於ける遊泳も、一定の注意の下に行へば差支へがありませぬ。

斯樣な次第でありますから、歌羅巴

○衣服の浸み拔

衣類に附きたる汚物を取るには種々の方法あり又絹物は木綿物と同樣にする事は出來ぬ木綿物で又素人が洗つては大體に於て惡くはないが絹布類である時は特に上等の衣類とか曾て惡くしてしまつたり惡變さすると恐れがある故に尊門の令嬢が爲に甚だ來て自ら洗濯などをせずに成るべく出まが出れば御話致しませうなるべくそこで今此には木綿物のシミ洗張屋に賴まなければならぬ

▲拔き出に就きたる時は梅の葉を煎じて洗ふか又は石鹼水に浸して

▲黴の取方は白米を取り專門の

▲後能く揉めば白砂糖を出來る大底は出來る

▲滋なく揉み付けて洗ふがよい

▲ペンキの附きたる時は布に揮發油を附けて拭ふがよい

▲泥の附きたる時は生姜の絞汁にて洗ふか又は能く乾して後

▲羅紗類及血の附きたる時は水一升に竪二合を入れ能く煎じ少し冷した

▲粘類及血の附きたる時は大根の絞り汁にて丁寧に洗ふがよい

▲油の類附きたる時は橫に摩擦するがよい

▲ふがよい

▲白きものに茶の附きたる時に飯の取湯にて洗ふがよい

▲漆の附きたる時は味噌を煎じ上ずみを取り少し冷して洗ふ

▲甘い物の附きたる時は壞を煎じて洗ふがよい

▲蠟の附たる時に木炭の熱灰を紙に包て其上に宛てるがよい

家庭と和歌

佐々木信綱

花の無い庭と文藝の趣味の無い家庭ほど、面白味の無、殺風景なものは有るまい。しかして家庭に文藝の趣味あらしむるは、多くはこれ主婦たる人の心がけによつてゝある。故に家庭をして高尚に且つ趣味のある家庭たらしむるに最も必要なものは、主婦の文藝的修養である。その修養には音樂も繪畫も素よりよいが、文學の方面では、和歌が最も適當して居ると思ふ。

何故かと云ふと、和歌は三十一字の短詩形であつて、一通り作り得るやうに成るのは決してむづかしいもので無い、元來、和歌は喜怒哀樂の折にふれ物に感じた聲をうたひ出るもので有るから、樂しいと思ふ情、悲しさに堪へぬ思などを、そのまゝ三十一字に言ひ表はせばよいので、特別に學問の素養が無くとも詠み得られる、中には、嬉しい事のあつた時、もしくは悲しさにあうた時、又は海水浴温泉などに遊んだ時、かういふ情を歌うて見たいとか、あゝいゝ景色であると深く感じても歌は容易に作り得られるもので無いと始から斷念して、切角詠みたいといふ感情が湧いても、其まゝにやめて仕舞ふ人が多い。自分が多年數多の人に教授した經驗からいふと、始めて歌を詠んだ人でも、一年半の間學ぶと必ず一通りに詠み得られ又和歌の趣味を十分味はひ得られるやうに成る。而して音樂のやうに樂器にむかはずとも、書のやうに繪具を用意せずとも、衣を縫ひつゝも、子供を寢させつゝも、歌は詠み得られる家事に忙がしい主婦にとつて、さういふ點から歌は適してをると思ふ。

元來婦人の心は、觀察が緻密で、感情が優美で、かつ同情に富むの特長を有して居るから、これらの人間の性質を土臺として居る和歌には、最も適して居るから、又和歌を詠み習ふ事は、一方からいふと、やがて是らの婦人の特質美所を益々養ひたてゝ行くので、實に德性の涵養の上にも大いなる價値のある事である。

我が國に大文學が出ないといふ嘆聲は久しく聞く所であるが、立派な文學や、それを作る人の出るには、其爲めにまづ一般の國民や社會の趣味性が養なはれて來ねばならぬ。やせた土地から美くしい花は咲かぬ、而して實に此の家庭の趣味性を發達せしめ、美くしい花を咲かする土地を作るのは一に家庭の主婦の文藝的趣味の涵養にあると思ふ。これを思へば婦人の趣味性の敎育といふ事は、重大なる意義のある事で有る。自分はさういふ理想からして、多年女子の和歌の敎育に盡くしつゝある。

以上は專ら家庭といふ點、主婦といふ上から述べたが、能ふべくは、今の高等女學校程度の學校の上の級には、和歌の課を設置せられ、古人の和歌和歌の歷史を講じ、作歌の初步を敎へられん事を望むのである。而して更に〳〵多く和歌が普及し、婦人の趣味を養ふ上に大なる功果のあらむ事を希望するのである。

●子供の話

▲人間の生れた譯

七ツになる隣の子を捕へて『茂ちやんは誰の子？』と云ふと『おッ母さんの子』と云ふ、『何處から出たの』『お腹から』

『何うして出來たのだ』『お母樣がれ御飯を澤山食べたから、それてお腹が大きくなつて、それで出來たんだ』と答へる

『父ちやんだつて御飯は澤山食るだらう？』『そりや食べるさ』

『夫のに何故子が出來ないの』と云ふと『お乳が出ないからだ、お乳出ないのに子を生むなんて可笑しいや』何が可笑しいのだか譯らないが、大概の子供は男女を問はず堅く鋭う信じて居るらしい、或る四つになる兒は御母樣の乳から出た相だが夫は極めて少く、大概は女から生れるといふ事を信じて居る、其の說據には男の子に御前は『子を生むか』と問ふと『生ぬ』と云ふが女の子は『大きくなつたら生む』と答へる、極めて簡單な解決を下して滿足してゐる

簡單な觀察　ある西洋の物語には子供が自分の弟が生れた時に母から『御醫者樣が革鞄の中から出して置いて行つたのだ』と云はれ其次に醫者の來た時に『犬の玩具と取換て下さい』と强請つたと云ふ話がある、中々面白い觀察だと思ふ、まだ兄弟の愛情と云ふよりは可愛い玩具として取扱つてゐる

日本婦人の不行義

醫學博士　北里柴三郎氏談

家庭衛生に關する御話を承はる爲め北里醫學博士を御訪ねしました時、博士は徐ろに微笑を漏らして日本の婦人に甚だ不行儀な惡いことが一ッあると被仰いました、婦人に不行儀なことゝは何であらう而も「日本」のと云ふ字を冠せらるゝに至つて聞捨ごになりませぬ「それは何でございますか」と疊みかけて伺ひますと「マア言ふのは廢さう」と云ひ消してお了ひになりました「そんなことを被仰らないで御都合が惡ければ匿名にいたして置きますから……」と退引ならぬやうに御請求いたしましたので「では仕方がない言ひませう、けれども、私の言ふことは、一言半句にも責任を持つて言ふのですから、口を出した以上は匿名には及ばぬ」との潔い御語、言ひ辛いことを婦人の爲めに注意して下すつた博士の御好意を多としお互に惡い習慣を改めるやうに致したいものです、博士は下の如く語られました。

日本婦人が小用を耐えることが出來ず、一日の中に幾度も〳〵便所に通ふと云ふことは確かに不行儀千萬な惡い習慣と云つて宜い、例へば宴會なり其他會合の席に列する貴婦人方でも、三時間と小用を耐へて居ることが出來ないではありませぬか、此間も某所に招かれて往つて見て居ると、餘興の幕合に綺羅を飾つた令嬢や貴夫人方がぞろぞろと、席を立たれる何處に往かれるのかと見て居ると、皆便所への通路へ向はれるので、何うも不體裁極つた話ではありませんか、或人は多人數集會の所では便所に往つて高價な香水を散布した巾手から床しい香を四方八面に放つのを、此上もない自慢として居るとは以ての外の心得違ひで、あの不體裁を西洋人が見たら何と思ふで有りませうか獨逸邊で學生がビーヤホールに入つて盛に鯨飲をすると屢々小用に立つことはあるが、西洋の婦人が、他處へ往つて矢鱈に便所に通ふなど、云ふ事は恐らく見ない圖である、小用を耐えて居らしんと云ふのは一つの惡い習慣であります決して

身體の組織が違ふのではないのだから、妻や娘にも此事に就て始終叱言を言つて居ります、一體人間と云ふものは一晝夜に三度小用を足せばそれで充分なものです、それ故幼少の時から然う云ふ習慣を附けさへすれば、何でもないことであるのにそれを阿母さんが先頭になつて、無暗に小用に立つて見せるから子供も見やう見眞似で、遂に寸時も耐えて居られぬやうな習慣になるのです餘處にお客に往くときは、お湯や冷水をがぶ〳〵飲まず家を出るとき、小用に往つてお行儀良くしてお在なさいと云ふことを小さい中から敲へ込むのが大切であります、冷俄かに奥さんやお嬢さんに向つて貴女は無暗に小用に往つて可けませぬと、眞向から攻撃したら、或は健康を害するやうなことがないとも保し難いが、それとても一體日本人は一日の飲量が多過ぎるから幾分でも之を節するやうに注意すれば、三度往く所は二度で濟むやうになります、外國婦人と入り交つて舞踏會に出で、或は音樂會などに列しながら外國人は秩序整然として堂々たるに拘はらず、日本人はそこ〳〵と立つて便所の通路に押合をする、之を見る人の感じは何うであるか、些細なことのやうであるが、關係の及ぶ所はなか〳〵大變な問題であると、私は常に歎息して居るのであります。

眼の養生

暑が嚴しくなるに伴うて往々逆上の氣味から眼を病む人がある、眼程あらゆる五官器の中で、大切なものは無い、殊更注意か肝腎である、分けて視力の弱い人の子や、眼病者のある家庭の人は、尚一段の注意が必要である、何人も、氣を注けなければならぬのは、塵埃や、煤煙、有毒瓦斯、高度の熱及寒冷、其他強い風なぞが眼に當つたり、入つたりしないやうにせねばならぬ事だ、又凡ての種類の傷害が眼に加はらないやうにする事も大切である。

▲眼と光線の關係　光線は、眼に多大の影響を與へるもので、餘り強かつたり、眩しかつたりする

と、眼の神經は、其の刺戟に依つて痲痺し、眼病となる、斯くの如き光線は、暗い所で俄に病に來るか、或は下方から、或は側面から來ると、其害が甚しい、又強い光を發する物體より眼に來る光線も甚だ有害である、度々長く太陽や、月、火焔などを見るのはよろしくない、太陽の光線が、強く直射する所で、讀書や裁縫をするのは有害である、それから又朝眼醒めて直ぐに強い光體を見ることも、亦惡い、之等の規則は小兒や視力の弱い人が、最も注意して守らねはならぬ、而して強い光が有害であると同時に、弱い光も眼のために宜くない、仄暗い所で、細かい字を書いたり、編物をしたりするのは、甚だ感服しない。

▲有害なる光線　一體に緻密な仕事をする際は、眼に適當な光線が必要である、瀛車の内のランプの光、或は灯が風に搖られて居る木蔭で、時には暗くなつたり時に明るくなつたりする場所で、仕事を爲るのもいけない。其れから天然の光と人工の光の混つた所、例へば、夕方まだ太陽が其の餘光を放つている時、ランプを點けて仕事をするのも有害である。

▲眼に適する光線、人工の光線に就て言へばランプを使用する際其の蓋は少くとも眼に當る部分丈光線をなるべく自然の性質に化せしむるやうな色にするが宜い、其の色はバイオレットか或は綠の淡いのが適當である、仕事を爲る時に光線の位置に注意することも亦肝要で、右の手で仕事をする人は、左の方から光線の來るやうに、其位置を占めて、ランプから其仕事を爲る者の上へのみ光が射して、眼の方へはなるべく來ないやうに爲すべきである。

▲仕事をする時の態度　仕事其のものが又眼に種々の影響を與へる。第一に緻密な仕事や、或は眩しい光を發するもの、其の他黑色を帶びた物を扱ふ仕事を永く讀けるのは不可ない、かゝる仕事に從ふ際は、時々眼を休ませて、稍離れた場所にあつて眼に快感を與へる、穩な光を見るとか、又た時々仕事を變ずると、大變具合が宜い、甚だしく眼の近くへ持つて來なければならぬ仕事や、近視眼になり易く視力を弱めるやうな仕事は、永く續

けて行はぬ樣にしたい。近視眼になる傾のある人幷に近視眼の人は、なるべく其仕事をする物と、眼とを遠く離して姿勢を端然と構へて、頭部をば出來るだけ、前へ屈しない事にせねばならぬ。斯くするには、讀書の時など普通の机よりも表面の斜面になつたのがよい健全な小童が普通に保つべき距離は、二十六乃至三十一センチメートルである、若し近視の人で、眼鏡を必要とする人は、必ず先づ醫者に見て貰つて、近視の度を定めて、それに適當した眼鏡を選ばなければならぬ。

▲眼の異物を取る法　眼に異物の入つた折は、能く素人のやることであるが、指で眼を擦つて、これを出さうとすると却て惡いから、眼を幾度も開閉する方が宜い、刺戟のあるものなれば、涙が出るから、其の間に涙と共に自然に外へ流れ出る。若し其れで取れなければ鏡の前で其異物の存在を見出して、柔な清潔な布片の端で、輕く取るに限る。尙ほ異物の入つた眼を横から清潔な水をスポイトに含ませて、洗ふやうにするのも一つの方法だが、其等が凡て効果の無い時は、直ぐに醫者に壓け付けるが安全であらう。然し其の間、決して手なぞで眼を擦つてはならぬ。痛みでもあれば冷水で罨法をすることは惡くない、普通別に差支のない小さい異物なら、以上の方法を自ら試みるのもよいが、酸類とか熱湯とか、其の他刺戟性の有毒物の入つた時は、最先きに醫者に見せる必要がある。

▲危險な惡戲　能くやる惡戲ではあるが他人の後から窃と忍んで行つて、指で眼隱しをする人がある、これは極めて危險なことで、第一、手に不潔物の附着て居る虞れもあり、又た眼に受ける壓迫が甚だしい害を及ぼす、此の種の惡戲を行うてはならぬ。

洗濯の仕方

衣服の清潔を保つ事は衛生上及び家政整理上大切な事柄である。夏季は一番、洗濯に忙はしい時で、何處の家庭も容易く實行し得る洗濯法を

要求して居る。今左に其の輕便な洗濯法を發明した五十嵐健次郎氏の談話を掲げる。

▲浴衣、麻布。ハンカチーフ、其の他敷布、枕かけ、足袋等は一寸洗つた丈では容易に垢が落ちません。之は煮るのが宜い樣です。煮ると言つても普通の家庭では洗濯釜に代ゆるに塗炭製の大形の物か或は石油罐の空を、中から切つて其の切口を内部に曲げ込んで置けば、危險はありません。之なら臺所の隅で七輪にかけても直ぐに使用されますし、至極便利です。先づ此の中へ洗ひ石鹼と洗ひ曹達とを入れて沸騰させ、洗濯物を其の中に入れて煮るのです。次ぎに釜から下して盥に移し少し冷えるのを待て能く洗ふと垢や脂肪は浮いて居ますから、左程骨を折らずに清かになります。之を水で三四回濯いで最後に青竹の粉を解いて盥の中へ薄青い水を作つて其の中に一寸洗濯物を浸して後、取上げて乾かすと、白い物なら一層綺麗になります。ハンカチーフは酒白劑即ちカロキで洗へば容易に垢も除れ眞白になります。足袋はハンカチーフの洗ひ汁で洗つても宜いでせう。糊は生

麩が普通です。

▲原料に就て注意　青竹の紛の代に藍を用ゐても宜い。然し素人には青竹の粉の方が使い易いやうです。藥種屋で一錢出して買へば澤山あります。之を解く時は塊や濃淡の出來ない樣注意せぬと、洗濯物に青色のムラが出來て見苦しくなります。洗ひ石鹼と洗ひ曹達の分量は、別に定つた制限はありません。大抵目分量でお入れになれば宜い。強ゐて申せば、石鹼は湯に攪拌せて、泡の立つ程が適當です。普通の石鹼なら小さく刻んで入れると、容易に解ます、洗ひ曹達は、石油罐の空ならば大匙一杯も入れ、ばそれで澤山でせう。

▲メリンス、セル、フランネル　之等は微温湯（石鹼、曹達を解かした）で強く揉まずに洗ひます。微温湯の代りに水を用ゐる時は、石鹼を附けて洗ふのです。熱い湯で洗ひますと、色物なら其色が褪せたり縮んだりすることがあります。白色の物は、洗濯した後を濯いで、亞硫酸曹達で洒すと、綺麗になります。（亞硫酸曹達は、一瓶僅か九錢位です。何所の藥種屋にもあります。ビール瓶大の

ものですから、誠に廉い物ですが、普通の家庭では未だ之を使用する事を知らない樣ですから、特に茲に申します）水五升に對して亞硫酸曹達一合の割に合せて用ゐるのです。洗濯物を此の中に浸けて置けば眞白になります。取出して水で一寸濯いで蔭干に致します。

▲洋服の洗濯は之に限る　洋服などの毛織物を水洗濯に致す時は、石鹼又たは曹達等を使用する爲め、品物に依つては地質が荒れて色が褪め、縫ひ目や、格好を崩すのみならず、寸法が縮つて、光澤が失せて糊氣も去つて了つて、ともすれば貴重の品も一回の洗濯で臺なしにする事が稀れでありません。殊に皮類羽毛類、シホン、レースの類等は、水洗濯では、如何も不可ないのです。それも單純な服裝の時代は、水洗濯でも間に合ひますが文明の進歩と共に複雜な服裝を要する樣になつた今日は、到底水洗濯を以て滿足する事は出來ません。それには、如何しても乾燥器械を要するのです。然し家庭では一寸容易く實行出來ませんから專門家に任せる方が却つて便利でせう。

▲手輕な洋服手入　フロックコート、又は背廣は簞笥に收つて置いても衿や袖口に黴を生ずる事があります。之を防ぐため衿は齒磨楊子に揮發油を附けて軟かに磨り、袖口は同じく齒磨楊子に石鹼を附けて磨るのです。斯くすれば、蟲の生ずる憂ひがなくて、長く保存する事が出來ます。之れは餘計な事ですが一寸申し添へます。

羊羹の製法

〈練羊羹　最上等の寒天を四五時間水に浸して洗さらく水氣を絞り取り小さく刻んで鍋に入れ水を加へて火にかけ成るべく搔きまはさぬ樣にして靜かに煮ると自然に解けるから其に上等のザラメ糖を入れて沸騰させたる後水嚢で漉し再び鍋に入れて能く煮つめ其に小豆を漉粉を加へて能く混ぜながら煮つめ、可なりに練れた頃を見計ひ箱等に移して冷やすのであるが材料の分量は、寒天一本に對し水一合五勺ザラメ糖百五十匁、小豆粉百匁〈立派な物が出來るのである

〈蒸羊羹　を作るには初め餡を適宜の量にし其の五分一の程のメリケン粉、其の又半分程の片栗とを合せ置き、其に上白砂糖三十匁を水に溶かしてよく練り合せ次に小豆の漉餡百匁と一匙の食鹽を加へてよく混ぜ再び白砂糖五十匁を水に溶かし加へて全くドロ〳〵になつて物を蒸籠に移を入れ濡布巾を敷いた上に一寸位の深さに盛り其の上に又濡布巾を敷ひ約一時間程蒸し其のまゝ風邊しの好い所で冷し固めて適意の形に切るのである

新しき玩具の紹介

萬項

新案登錄 機械體操

定價一圓三十五錢

油繪的の景色が景となつて其の前のところで盛に鐵棒をやつてゐる。其の前には造花などが飾つてある、ぜんまいを卷くとさあ初める大振上り、ゑびはね位は譯のないところ大車輪をやるかと思へば吊船をやつてぢつとためておるかと思へば一寸輕く上つて倒立をする變化無限如何に上手な撰手も之にはかなはないのである由來ぜんまい仕掛のものは同一運動を繰り返すのが普通であるが之は變化極なし十五分位繼續して運動する適當なる觀察玩具である。

旋風機

定價三十八錢

電氣仕掛の旋風機と同一形に出來て原動力が螺旋である出來は大變によい單簡なる實驗的玩具である

水ピストル

定價 十六錢

ピストル持つ處がゴム球で出來て、之に水が這入る、丁度ピストルを擊つ風にしてゴム球を壓すれば水が三間位飛ぶ夏の玩具として尤も適當なもので東京市內は學校の生徒迄大流行である

八臺汽車

定價 六十錢

形は小さくて出來が丈夫レールがない在來のものに比して優等なものである。

船

自一圓二十錢
至三圓

夏の玩具として殊に池でもある處は是非船が必要である。和製でも本年二種位出來たが價三四十錢位だが何だかすぐ壞れそうなものだ、舶來で汽船形もあれば水雷形もある之には大變能く出來て舵から水進機など全く實物通り工夫が大變によい船を見ることの少き處など是非必要であらう

吸付鐵鉋

定價　六十錢

和製にも以前あつたが工合がよくない、本年輸入の舶來で大變工合のよいものがある其の構造は引きがねを引くと矢の樣な長い棒が飛び出す其の先のゴム製の吸盤が附いてゐて的にくつつく面白い玩具である

因に記す本欄紹介の玩具は九段中坂上フレーベル館にて販賣す本會に照會するも無益なり

組立積木について

S N 生

フレーベル館主高市次郎氏一日小箱を携へて拙宅を訪問し今回新案の組立積木について批評を乞はる開いて之を見れば色彩の燦爛たるなく形に妙なるものなし只見る朴の木片のみ徐に組み立てゝ其説明を聞くや其の形に於て、其の運動に於て將又其主義に於て從來稀に見る好玩具なりしなり先づ車臺に車を嵌めて下におけばとろつことなり色々のものを載せて押し廻れば已に充分の興味あり之に平方體と方柱とを以て電車を組み立て上に屋根を嵌めボールを挿めば其の形具に迫る之を押し動かすも壞れざる樣組み立てらるゝは最も妙なり又少しの變化によりて汽車ともなる而も組立つべき木は凡て幼稚園用二種の積木を以て足る由來兒童に電車汽車を積ましむるときは必ず之を押し動かさんとすること諸氏の常に經驗する處ならん此の研究的意志を滿足せしむる上に於て最も教育的價値を認む其の後之を兒童に試むれば尚豫期以外の工夫して種々に使用すること想像以外なり幼稚園は唯車臺屋根等の附屬品を購へば事足るなど最も妙なるべし茲に愚見を掲げて一般に紹介す

玩具研究部配布玩具

五月分の同玩具には前項の積木を用ゐました六月分のには、マグチットで連結せらる可き小軍艦數艘を送ります。時節柄水遊に都合よからうと思ひます。七月分のまだ決定致しませんから次號に御報告申すことに致しませう

智惠の種子

氷の話

世間一般に販賣して居る氷に天然氷と人造氷の二種あつて需用の點から云ふと天然氷は三分の一で人造氷が三分の二を占めて居る

▲今年の天然氷　北海道、信州諏訪湖、輕井澤、野州磯部邊に於て天然産する氷塊で就中函館の龍紋は著名であるが今年は收穫時に當つて氣候が不順の爲め概して天然氷の結果は不良であつた毎年一尺二寸位の厚さに張り詰めたものも今年は漸く六寸乃至七寸位に過ぎない

▲魚屋の冷し氷　諏訪湖、輕井澤の氷は飲料に適せぬのがある是等は冷し氷と稱し魚河岸などで魚肉を保存するに値が安いので重寶がられて居る分が薄いのと目方がないのとで溶解が速いから自然不潔物が寫入し殊に心に巢が入つて優良の氷は得られぬ

▲盛なる人造氷　人造氷は水道の水を濾過し蒸溜して製造するのである東京では本所中の郷に會社があつて二臺の製氷機を据えて一日百噸の氷を製出し一年の産額は約四萬噸に上り深川に分工場がある外市内に十五箇所の貯藏庫があつて市民の供給を滿して居る尙ほ近日一日百噸を製出する新機械を設置するから生産力は倍加する勘定である其外帝國冷藏でも二十五噸の機械を有し製造して居る

▲一夏の消費七萬噸　氷の需用は年々增加して價は漸次安くなる東京市民が一夏の消費量は約七萬噸に上る

▲嚴寒氷を嚙る米國人　米國では冬期暖炉を擁しつゝアイスクリームを啜るといふ習慣で日本人の目から見ると爲渡想像のつかぬ話だが彼國は四面環海の我邦と異り大陸なので自然空氣が乾燥して居る爲め渴を覺ゆること甚しく夏でも冬でも飲料に飽かぬ淡水を飲む場合にも氷片を洋灌に泛べウヰスキーの如きも氷で飲む千九百年紐育には四十一臺の器械があつて一日に二千七百噸を製出したが昨年の統計を見ると七千六百噸に上り僅十年間に於て三倍の額に達して居る實に十日間の生産力は克く我が東京市民が一夏の渴を支へ得べき次第である

▲手輕な溶解豫防　氷の最もよく解けるのは六七月の頃で日の照る炎天よりも雨の降る涼しい日が易け易い是れは空氣に水分を含んで居るからで防暖裝置を施した貯藏庫の裡ですら解けることもあるから小賣の氷店などでは堪つたものでない是れを防ぐには鋸屑、石綿、炭の粉なども可いが素人に簡便な法はよく乾いた毛布がフランネルの類に裹んで置くのが便利である冷藏函の如きも藁を敷く時、氷の上に新聞紙一枚載せて置いても効目がある位だ

各國樣々の珍食

……外國では怎んなものを食ふ……

南部亞弗利加で先づ珍味として指を屈するのは獅子の肉である、之は土人並にボア人中では非常に持て囃される虎の肉は印度の所々で單に食品として居る許りでなく敏捷と力量を增加する藥として使用せらるゝのである、野猪の肉中でも燻製の舌は最も貴重なる珍味として獨乙では賣買されて居るが硬く堅くて宛然靴の革と護謨を一緒にして嚙んで居る樣だとの事、象の肉も亞弗利加では美味いものゝ中に數へられて就中象の脚の燒肉は珍中の珍味と稱讃されて居る、上部埃及世に邏羅では鰐魚の肉が公然食用品として賣買かれて居る、サント、ドミンゴ、中央亞弗利加でも鰐肉は

蒸付たり燒たりして食つて居る、青蜥蜴は伊太利、西班牙の南部で食用に供するが希臘では蟹と一緒にスープの中に入れて珍重するとは聊か驚くべき事である、又泥龜の肉を食ひ生血を飲用し卵をも食ふさうであるが之れは日本人には平凡である、佛國人が蛙を食用にする事は廣く知れ渡つて居るが亞剌止亞人は薔薇の蕾を砂糖煮にして食ひ土、耳古人は、百合花からプランーデーの如きものを造つて飲用し、佛國では菫の砂糖漬ルーヴニヤ、ブルガリヤ邊では尙各種の花を食用に供して居る

蛇を食ふ動物

印度より來りし珍獸

昨年十二月初旬印度に赴きし理科大學教授理學博士渡瀨庄三郎氏は人の最も忌み嫌ふ蛇を捕食する動物を携へ廿九日午前十一時新橋著歸京せり博士は曰く、三月廿九日長崎に著し前記動物を携へて鹿兒島から沖繩縣に渡り種々試驗した上今日漸く歸京した次第だ蛇を捕食する動物の名は俗名マーグースと云ひ印度ではニーヌルと呼んで居る長がさ一尺二寸から四五寸までのものも都合廿九頭を持ち歸り沖繩に廿五頭を放して四頭を大學に持ち歸つて途中は牛肉を食はして居たが元來は鼠と蛇を好んで食する動物故今日も大學で鼠の御馳走に舌鼓を打つて居つた至つて敏活で人間に馴れ易い動物なので頗る可愛處がある沖繩鹿兒島或は伊豆の大島の樣に飯匙倩の爲めに年々歲々多大の損害を蒙る土地では此のマングースが來た爲めに如何程幸福を得るか解らぬ、蛇其の物は別に農作物に害を與へぬけれども其を耕作する農民に危害を加へることは實に夥しい其が爲め沖繩の人には蛇程恐ろしいものがないと思ふ矢先其の蛇を片端から捕食する動物を放したので農民は勿論土地の人は神の惠みでも得た樣な風に喜ばれた此れが次第に繁殖すれば蛇は次第に無くなるから土地の開拓でも事業でも著々進行することが出來るのだ沖繩で試驗した處では彼は先づ蛇の頭を噛み失れから內臟筋肉と順次に食盡すこと實に妙を得たものだ其上蛇の卵を搜索する力があつて夫れに鼠を捕食することも妙を得て居るからベスト退治にも屈竟で彼是れ都合のよい動物である唯繁殖が多くなるに連れて鷄を狙つたり家禽を狙つたりしはせぬかと夫れを懸念して居る猫ほ旅行中氣候の變異で弱りはせぬかと思つたが皆元氣なので安心した因に博士は近々理科大學で動物學上から見た前記動物の詳細の講演をする筈である

婦人と燒芋

東京帝國大學教授醫學博士　大澤謙二氏談

◎昔は、書生の羊羹と言へば燒芋の事と直ぐ首肯かれたものだが近頃の青年學生は贅澤になつて却々燒芋位では滿足しない。芋燒の顧客で昔も今も變らぬものは婦人である

◎其實婦人たると女學生たるとに論なく、凡そ女といふ女で、燒芋と南瓜の嫌なものはあるまい。そんな下品なもの嫌ひよといふ言の下から、六錢の燒芋をペロリと平ぐる婦人は、そんじよそこらに幾らもある

◎人の前では氣高く取り澄まして、事毎に解放を口にし、舊道德や舊習慣に反抗して、妾こそ何にものにも囚はれざる新婦人なれと威張りながら、燒芋にはマンマと囚はれて、寄宿舍の寢床の裡、密と隱し喰ひするムラサキ式部は尠なくないのである

◎願くは輕羅となつて君が纏腰に纏はん……と唸つた鼻の下の長い人間奴が眼下に見て、獨り寢を擅まにする燒芋こそは、誠に天下の果報者といふべけれだ

◎斯く切つても切れぬ因緣ある婦人と燒芋、彼等の間には何如なる祕密が伏在して居らうか？（これからが大澤先生のお話である

◎凡そ人間の身体を養ふ成分は、一に蛋白質、二に脂肪、三に炭

水化物で、前二者は牛乳、卵、肉類等の中に含まれ、後の一つは植物性食品即ち米麥に富より、大根、人參、午蒡、芋たどに在る

◎蛋白質や脂肪ばかりでは身体は保てぬ。寧ろ炭水化物を多く採らねばならぬ。肉や卵ばかり食つて居ては、豚の樣な人間は出來ない。加之第一便通は良くない、恰かも鶏の糞のやうに、固いコロ〳〵したものばかり出て困まる

◎然るに植物性の物を喰べると、其纖維の爲に腸を刺戟して便通を調へ新陳代謝を熾んならしむる。試みに糞便を洗つて見ると、其中には澤庵の皮や、芋の筋などが其儘ある。こんな不消化な物を混ぜて喰べる方が、大部分消化されて了ふ所の牛乳や玉子ばかり食ふよりも、腸胃の働を強める効がある

◎扨て芋燒は植物性食品に屬し分析表に據れば蛋白質一、〇〇、脂肪一、〇〇、炭水化物二二、〇〇あつて、さう馬鹿にしたものではない

◎然らば何故女が特に之を好むかといふに、其味の極めて舌に適し屬るといふにも由るが、一體女には姙娠其他毎月身體に障りのあるもので、兎角秘結する。殊に多血質の婦人は春先になると頭痛がしてのぼせる。故に自然澱粉性の燒芋を欲するやうになるのである

◎今燒芋を食ふと、其澱粉は葡萄糖となつて血液中に入り、細胞内に於て直に酸化せられて溫熱を生じ且つ力ともなる。其消化されざる部分は、腸を刺戟して後、樣々の香ばしき現象を起す

◎女が燒芋を好むのは生理上必要の結果で、毫も恥ずるには及ばぬ。若し恥づべき者ありとすれば、开は酒を飲み、煙草を喫す女である

夏の食物

醫學博士　二木謙三氏談

◎自然に從つてさへ居れば人はいつも無病息災だ。冬は寒いから冷たい物を喰べ、夏は暑いから溫かい物を喰べる。これが根本的の養生法である。

◎といふのは、夏は腎臟の働きが鈍くなつて、小便の出やうが少ない。其替り皮膚が盛んに働いて汗が餘計出る。新陳代謝の作用は重に皮膚が營む

◎然るに暑い時突然水の中に飛込んだり、氷水を飲んだりして身體を冷やすと、血管が收縮して汗が引込む。無理に汗を引込ますのが一番毒だ

◎夏は成るべく働いて汗を出すが宜い。汗が出たら手拭を水に浸して拭くか湯に入るかする。湯上りに冷水を被ふるのは虛弱な人でも耐ゆる

◎涼しい座敷でビールを傾け、氷水を飲み蕎麦などして直ぐ風を引くのは、夏の暑さに服從し得ず、強ひて之に反抗して、人工を加へ過ぎるからだ

◎冷藏庫などで食物を冷し過ぎるのも餘り宜くない。

◎氷水でもアイスクリームを食ふやうに少しづつ甜めずつて居れば、清涼劑となつて左程害もないが、大口にかぶ〳〵飲むと、汗を引込まして折角の新陳代謝を妨げる。

◎氷水よりも純良の井戸の水の方がまだ可い、井戸の水は冬は溫くて夏は冷たいやうに思ふけれども、之は單に感覺の作用で、地下の溫度は夏も冬も別に變りはない。唯冬は大氣の溫度が低いから井戸の水が溫かく感ぜられ、夏は溫度が高いから、同じ井戸でも冷たく思はれるだけで、不自然な氷水よりも自然の儘の井水の方が人體には適する

◎食物も其季節々々に出來た物が一番可い、秋から冬に掛けては動物に脂肪が殖え、食つても美味いが、夏は不味い、春、夏は植物が最も繁茂するので、野菜類が何により好い

◎凡て食物は必ず一定の時間胃中に在つて、消化されてから腸に送らるべきもの。然るに如何に季節物がよいからとて、西瓜や甜瓜などを一時に澤山喰べると。胃液に依つて消化されない内に早く腸に送られて了ふ。すると最も迷惑するのは腸だ。忽ち加答兒を起して下痢する

◎暴飲暴食して赤痢になり、虎列刺になるのに、胃中の内容物が消化されずに直ぐ腸に送らるゝからである。大抵の黴菌は胃液中にある酸類に遇へば其活力を失ふものだ。それが暴食した爲め酸類に遇ふ暇なく、其儘腸に達すると、腸は黴菌の極樂世界だから思ふ存分繁殖して害毒を逞うするのである

婦人に關する出版物

歐米諸國に於ける出版界の最近の統計を見ると月々に發賣せらるゝ數萬の書籍の中婦人の手に依りて著作せられて居る家政、料理、育兒、教育、文學、美術、裁縫、編物等の書籍及び此等家庭物で男子の著作にかゝる書籍が全體の約百分の六乃至九を占めて居る而かも此の種の書籍は日一日と益多かを加へる傾向がある然るに顧つて我が國の現狀を見るに本年上半期を通じて婦人の著作として實に寥々たるもので單に一部の婦人が十數冊を出したに過ぎない而かもそれは殆んど文學に關するもので實際上の家庭物としては僅に數冊を出でない、又男子の著作物にも眞の家庭向としての書籍は甚だ多しとは云へない、此の原因は多々あるけれども一般に家庭と云ふものが餘り閑等に附せられて居る結果で從つて全般の家庭が歐米のそれに劣つて居る事が明である、今一月以降に出版せられた主なる家庭向の書籍を擧げて見れば ▲女子のため、下田次郎氏の著で現代の女子が心得べき事を丁寧に說たもの ▲結婚新說 大橋謙二氏が結婚に關する有ゆる注意を進歩した思想に適合する樣に講じたもの ▲淚と鞭 兒童教育に多大の趣味を有する中村秋人氏が子女を教育するに鞭を以てすべきか淚を以てすべきかと云ふ事を基礎とし心理學の原理より丁寧親切に育兒法を說いたもの ▲新體婦女鑑 金本元臣氏の著で明治の女大學とも稱せらるべもの ▲花嫁の準備と實務 社會全般に渉り花嫁となるべき準備と其心得を丁寧に說いたもの ▲日本教育文庫 訓戒編、家訓等があつて我が國古來の訓戒家訓等を集めたもので頗分の大部物だけに實のある書籍である、▲新式化粧法 藤波美蓉の著で衛生的化粧を說いたもの ▲年中重寶記 龜井マキ子女子が獨特の考案にある四時の野菜料理を簡單に敎えたもの ▲弦齋夫人料理談 有名な村井弦齋氏夫人が講義した料理法を石塚月亭氏が記述したもの ▲編物の栞 豐原繁尾子女史が多年の經驗に依つて出た編物の本である

雜錄

雨の幼稚園

愛らしい遊びのかず〳〵

打ち續く五月雨の鬱陶しさにさらでも活動性の溢るゝばかりな幼兒は大好の砂遊びも出來ず如何にして其日を暮す事であらう、昨日蕭々と降る細雨の中を江戸堀幼稚園に行つて見た、折しも遊戯室では五つ六つの幼兒が男女打ち交つて盲目遊びの眞最中、先づ三十人ばかりの幼兒が大きな輪を作つた中に愛らしいエプロン掛けたおみよちやんと紺がすりの太郎さんとが目をかたく縛られて頓りに追つかけたり逃げたりしてゐる、おみよちやんが「鬼さんこいよー」と手をたゝけば太郎さんは其聲をしるべに追つかける、併し互ひに目が見えないのですれ〳〵になつても捕へなかつたりするので輪になつてゐる見物人はをかしい〳〵と手をたゝいて笑ふ其賑はしさ無邪氣さ譬へやうがない、遂におみよちやんが捕まつたので又ドッと笑つた、それが濟むと今度は其まゝ鬼だけ變つて「茶坊主」をした茶坊主は輪の中い子供が矢張目を縛られて居るがお盆に茶碗を載せたのを持つて自分の思つた處へ持つて行つて、勝次さん、近藤さんなどゝ名を指して置く、指された子が今度は鬼になるといふのであるが目無しなのでお盆の茶碗を落すまいと注意する、手つき足つきの危なつかしさ、折角指して行つた名が違つたりするので紅葉のやうな手をたゝいて皆なが笑ふ、幼稚園に居ると雨のいぶせさを思ふ處ではなく先生方も見て居る記者でも眞實に心から笑つて仕舞ふ、やがて此頃同園で新しく作つた「拍子行進」といふのをしながら各自教室に入つたが此拍子行進といふのはオルガンのマーチの曲に合せて手を振り足踏たゞしく幼兒の行進中鑄に立つて居る先生が一つ手をたゝくと子供は一時にくるりと後ろを向いてもと來た方へ進むといふのであつた、是は餘程注意力の強い子でないとうつかりしてゐるでせう」と記者がいふと先生は「大人には一寸さう思はれますが子供はかういふ遊戯中にも變化のあるのを喜びまして手の鳴るのを待つて居ります」と語つた、何にしても愛らしいものである

双葉幼稚園の午後

毎日一錢宛持つて來る
先生帶を締めて頂戴

○双葉幼稚園の現況　四谷鮫ヶ橋の双葉幼稚園は去る明治三十九年學習院女學部附屬幼稚園主任野口幽香子女史が同地附近に在る貧民の子女を教導する趣旨により江湖の義捐と同情者の盡力とを得て創立したるものにして爾來星霜を經ること五年目下は定員百二十名を超ゆること十名即ち百三十名の子女（內男兒七十餘名、女兒五十餘名）を五組に分ちて教育し居れるが總て世間何れの幼稚園にもその授業時間は午前より午後一二時に亘る僅か二三時間に過ぎざるが常なれど元來此園は其日の生計に迫はれて餘事を顧るの暇なき人の子に一分一秒にても多く良き感化を與へんとする目的もて起りたるものなれば午前は八時より午後は五時まで殆ど終日兒女の師となり母となり或は遊び相手となり居る保母の勞の多大なること此一事のみにても並大抵の事ならずして特志の者ならでは到底出來得べからざる處なり況んや家庭の教へ全く無く生ふるが儘に任せたりし若草を直きに導かんする困難は一通りの事にはあらざるべし園長野口女史は一週一二回來園して全般の事務を總覽し種々の注意を與へつゝあるが平生は渡邊すゞ子百島增千代子鈴木とく子德永ゆき子近藤すみ子多々良てい子の六女史專ら之に從事し內、百島鈴木德永の三女史は此處に住居して總ての監督

にも任じ居れり

○門を閉づ　記者は一日午後に於ける園兒の授業を見んと欲し此園を訪ひたるに門は堅く閉ざされて出入自在ならざれど垣の内に園兒の嬉々として戯るゝあり不圖見れば上より引金の札は下れり試みに二つ三つ強く押けばキャラコ紗瓦砂の授業衣を纏へる鈴木女史は走せ出でゝ手づから門の鍵を外し「此邊には不良少年が居りまして一寸も門を開けて置かれませんのでございます」と言ひつゝ一室の内に導かる未だ此園に就て何等の見聞をもなさゝるに早くも此不安の語を聞き其の經營の至難なるべきを想到せり

○午後の園兒　此園にては日々園兒に義務として一鍬を持ち來たらしめ其一半を貯蓄して卒業の時に與へ、其一半を以て日々の菓子料に當て午後二時半より三時の間に菓子を與ふるの規定は兼ねて聞き居たるが記者の訪れしときは午後四時近く日脚稍々西に傾きたる頃なりしかば園兒が一日中唯一の樂みとする休憩時は既に過ぎて運動場の彼方此方には二三の園兒一團となり木を積むあり土を運びて庭を造るあり競爭を爲すありさては粘土を手にして手工に餘念なきあり裏手なる廣き空地の青草燃ゆる中には、草を摘みつゝ打連れて唱歌唄ふあり、運動場の所々には色さま〳〵なる鉢植の花、時知り顔に匂ふも床し鈴木女史は曰ふ、園長が非常に花を愛しますので、毎日各組の生徒に水を遣つたり日光に當てさせたりなどして培養に努めさせ先づ之に因て幾分か心の沈着くやうに致して居りますが決して之を縛るやうなことは致しませぬ

▲先生帶を締めて　折しも摘みたる草を雙手に握り今ははや用なき海老茶毛繻の襷卷を帶にしたる一少女、しどけなく解けたるを汚なき前掛と共に引摺りながら駈け來り鈴木女史の前に停歩して宛ながら母に甘へるやう「先生帶締めて……」と靦面もなく差出す無邪氣さ女史は優しく之を受け汚なけもなく結び遣りながら脇にドげたる布片を指し、これは手拭ですが無論始めは斯んなものは持つては參らないのですが此方から一人毎に與へて必ず腰に下げて來るやうに申渡して置きますが、今日持つて歸ると、明日は洗なしに無くして仕舞うと云ふ有樣で唯ど毎日新らしいのを遣らなければならぬやうな始末でしたが母の會毎月十五日同圖にて開く）の度に與れ〳〵も驗して遣りましたので、近頃はこんなに汚なくなつても必ず附けて來るので御座いますと云ふ

▲粘土細工の意匠　彼等が身巾合はざる衣の而も垢にまみれたるを身に纏ひ乏がら物足らぬ己が境遇の果なさを思はずして日々此園に通ひ、良き教へを聞き、面白き遊びに打興じ今日の日の正しき道に運び得るは偏に世の特志家の厚き情に外ならざるは今更言ふまでもなけれどさるにても周圍より彼等に及ぼす感化の多大なるは免かれんとするも亦能はざる處なるべし鈴木女史の談に依れば此園に通ひ來る女兒は孝案手工共に男兒に比すれば概して拙劣なりと云ふ孝案は兎に角、手工の知きは、世間一般の上より云へば寧ろ女子に最も適せるものとし、又隨分巧みに其技能を發揮し居るものなるに、この下勝就會に於ける女兒が、男兒に比して著しく其技の拙なりと云ふは、如何なる原因の存するにや教育者の一考に資すべきものなり、折から二三の男兒打寄りて粘土の細工に餘念なきを何を造るにかと進み寄りて熟視すれば鈴木女史は傍らより「あれは御神輿樣でございます此近所に諏訪神社の御祠がございまして毎年二つの御神輿が舁ぎ出されます、一つは御家根に鳳凰一つは寶珠が附いて居ります、それを見慣れて居りますので、此處の子供は、粘土の細工とさへ云へば御神輿を造るのでございます、其外に造るものは動物の形でございます」と成程小さい土だらけの手は今や鳳凰を家の棟に据えんとして苦心せる處なりき

▲先生を包圍す　折から授業の鈴は鳴りぬ、この時間を終れば彼等は已がし〻其住家に歸るなり前記の青草原に親母に引率せられ樂しげに散歩せる子等を窓越に打眺めつゝ教室に至りて見れば一組は折もの一組は針の穴通し一組は石版畫なり親母は何れも同じ授業衣を纏ひて教示せる樣いと親切なり「これ何うするんだ」「先

生これで宜いの」こゝかしこより聲起りて忽ち先生を包圍せる子等は身體も衣服も垢に汚れて異樣の臭氣鼻を衝く、之を一々懇ろに世話する先生の苦勞は察するに餘りあり世の綾羅に身を包める人々はせめてその餘財を拋つて斯る事業に盡力せる人の特志を扶くるこそその本分なるべけれなど思ふ

▲入浴と辨當　最初同園は朝六時より開門したるも室内の器物往々紛失することあるより已むなく七時よりとし、それにてもなほ警戒に困難なるより近頃は八時開門と云ふことに改めたるなりとか、而して入園申込みは非常に澤山なるも經費の都合にて前號記載の員數に止め置くなりと云ふ又毎週二回園兒の母親三人を屢ひ入れて子女を入浴せしめ居りしも昨今は之れ又毎土曜日に改めたりとこれに付き鈴木女史は語るやう「貧民窟として不思議なことは入浴を度々することです、それ故折角湯を立てゝ入浴させて遣らうと待ち構へて居りますと宅の子供は昨日入れましたから、何うか今日は御免を蒙りますなどゝ申すものが多いので一週に一度と云ふことにしたのでございます、それからお辨當の副食物が毎日變つて居りますこれも貧民には不似合ですが、一體魚ケ橋と申す處は一旦此處まで身を落せば大へんに何かゞ御厨くて暮し好い處ださうで、從て食物などは私共が考へて居るやうなものではないのであらうと思ひます、昨日ですと園長も見えて居りましたから、何か御話も申上げられたでせうが、私は至つて不行屆で只年役に斯うして御應接申上げて居るのみのことですから折角の御尊れに有益な御話も出來ませぬ併しどうか御目に餘つた處は充分に御批評を願ひます」云々、談は盡されどさのみ長くはと今年卒業したる園兒の製作せる粘土細工一つを借り受けて辭し去らんとすれば、小さき子供等は、先生左樣なら、左樣ならと莞爾しつゝそつと衣の袂を引きなどして（完）

●大阪西六幼稚園の尙武祭

幼兒の遙びに何がなとの工夫怠りなき西區の西六幼稚園では舊臘重五の前日に當る昨日十日の午前中を以て菖蒲の節句遊びを催した、「ヤー御節句じや、嬉しい嬉しい」と特に許された御菓子袋を腰にブラ提げて端午の唱歌を歌ひながら「母さんも、父さんも」と無理無體に急かし立てて例よりも早く幼稚園へ來て見ると玄關の應接間には鎧武者の額が掛つて柱には菖蒲の活花、何の保育室も何の保育室も鎧板壇には白紙の菖蒲ばかり、廣間に並べた「作り畠」も幟鯉やら兜やら武者幟やらの類を攢んだ先生の心配りに幼兒はいよ〳〵大喜び、お庭の先の休養室に美しう飾り立てた騎馬人形や鎧武者や熊を押へた金時や加藤の蛇の目の旗さしもの御殿作りの武者人形から當世ぶりの軍人なんど新古數十の人形棚をゾルリと園人で押合犇合の品さだめに時を移してから大遊戯室の真壓數へ二百餘のお旅を並べたの九時十分過であつた、紫の引幕がスルスルと開いて君が代の歌か濟んで愛らしい源平行進が平舞臺を下りて仕舞ふと次が「舌切雀」の可憐らしい獨唱、幕が閉つて幕が開くと顏を包んだ熊の上に斧を擔いだ金太郎の活人畫が笑ふて居るので大笑ひ、「今度は評判の大相撲ですヨ」と先生の口上があつて紅白の綱で圍ふた土俵の眞中へ手拭の粗づけた豆のやうな行司が現はれた、手には小さな渦巻團扇、それで煽ぐやうに「こつち、山田さん、こつち橋本さん」と兩だまりの力士を呼び出すと壓で一杯の兩力士が力みかへつてシコ踏んで直ぐに組みついて一生懸命に秘術を盡す、「モシ〳〵行司さん、モット土俵を同つて掛聲かけなはれ、アイヤ、殘つた〳〵、ソー落着いて立つて居ては勝負が見えまへんゾ、ハ……」と使丁の爺さん行司の後から走りまはる、「オット、あつた〳〵、東勝イ、ソーレ軍配を上げなさらんかナ、オー〳〵ソーぢや〳〵」と勝負は二番三番四番、とう〳〵東方へ御弊が渡りて大相撲が打出しになると中入で「御菓子おあ

がり」といふ御許がある、そのうちに幕が開くと寫眞のやうな「虎退治」の活人節、彈き出す風琴の音につれて「今日は五月の御菖蒲句で、家根には高い鯉のぼり、うちには飾る武者人形、鎧形兜に鎗もつて、加藤清正虎退治」と滿場一齊に歓ひ出した時の勇ましさ可愛いらしさ、御仕舞ひの「綱引」には人形のやうな巴御前や板額どのも打ちまぢつての大働きに後の席の父さん母さん嬢さん達も我を忘れて拍手喝采、手に〳〵粽と柏餅を貰ふて尚武祭の終つたのは十二時前であつた

●愛らしい陳列

安土町の船場幼稚園では昨日新築の保育室に兒童の作品を陳べて父兄達の縱覽に供した、遊戯場は小砂利を敷きつめて芝山の陰に大きな金網の小鳥籠がある、芝山も兒童が輝んだり上つたり出來るやうになつて、新らしい藤の棚の下の鞦韆は大繁昌、成るべく山も樂に上れる樣にして愚ふまいに運動させたいのが目的でございます」と八田保姆は云ふ、折紙の電車があつて恩物で梅田スエーション、築港、天王寺大阪城が作らへてある、「築港行き、四ッ橋乘り換」抔と子供が云つて喜んでゐる、こゝに汽車、人力車、電車、何れが早いかに就ての兒童の答へが出てゐる、「電車は車が澤山あるから」、「汽車は車に油をつけるから」、「電車は針線とコマがあるから」、「電車は車掌が機械を早くまはすから」、「汽車は笛をならすから早い」といふ樣な邪氣の無い答へがあるかと思ふと、知らん、「なんでかて」といふ樣なのも澤山ある、「海」といふ問に女の兒は「波とこんぶ汐水一ぱい、ほいづきと鯛」男の兒は「海は築港で軍艦と蒸汽船がある」抔答へてゐる、中には「海は瀧があつて鯛と蛸があります」と答へたのもある、紙で蝶や舟の形にして貼つたのも面白く好きな玩具の持ち寄りでは人形と汽車と電車が多い階上の同本室には同校裁縫生の手になつた生花、盆石の陳列、茶室には女生徒のお手前があつた、

●貯金の心掛

金森通倫氏が九州邊で貯金演說をした時に三度のものは二度喰べるやうにして働らけと云つたとてそんな馬鹿氣たとかあるものか我々は三度のものを四度にもして大に働らく積りだと非常に反對があつたさうです、其樣まで云ふては素より餘り極端に過ぎるに相違ありませんが經濟の原則として貯金は是非とも收入の内から絞出すの外はありません世間並とか附合ひ上とが云ふは奥さん方の口實になつて居りますが世間並みとも別に極つた並みがあるでもなく附合ひとて何でも之れだけの事をせなければならぬものと極つたものでもありません實は此樣な事を云ふ奥さん方は世間並以上の衣食、身分以上の附合ひ及び不取締から生ずる無駄遣ひか澤山ある其れで會計が苦しいのです、第一に自分の家の收入を考へて見て衣食住は申すに及ばず交際費でも雜費でも此以上は出せぬと思へば其れで何とか始末を附けるやうにせなくてはならぬ、乃ち凡ての事を一段卑く少し控へ目にさへしてそして無駄遣に充分氣を附くれば餘程會計は樂に往けるのです、其樣申すと奥さん方には悪いやうですが内にのみ居る人はお金を取る方の苦心に就ては比較的同情がない爲め彼の着物も此の化粧品もと云ふ愚も出るのですが御主人の氣になつて御覽になると今日の生存競爭は中々大した骨折なんですから少しでも貯金をして不時の準備位は是非とも奥さんの手でなさるやうな心懸けが肝腎だと思ひます

お伽訓話

無精な蟻

硯山人

或る立派なお庭の梅の木の根の處に小さな蟻の穴がありました。其穴から小さな蟻が出たり入つたりして一生懸命餌を引張つて來ては巣の中へ運び又出て來ては又入りして澤山の蟻共が働いて居ました。そうしますとお池の石の上に皆の働くのをぼんやり眺めて何もせず遊んで居る蟻が一匹ありました。其蟻がさもさもつまらなさうに。

「まあ此暑いのに皆んなはあくせく汗水流して働いて居るが　まあ何んとつまらないではないか　世の中にあたしたちの仲間程つまらない者はないおうち

の坊ちやんやお嬢さんたちはあの涼しいお縁側で女中たちに團扇であふがせ乍らアイスクリムとか何とか云ふものを呑み。涼しいの冷いのと聞くさへにくらしい。私もどうかしても少しらくに暮される者にならふ」

と獨り言を云つて居ましたがやがてうろ〳〵櫻の木へはい上り始めました。見ると上の枝の葉の處にきれいな蝶々が羽を休めて靜かに眠つて居ます蟻は之を見付て大よろこび。

「そう〳〵あたしも蝶になつて毎日〳〵奇麗な花の上を飛んで歩き甘い露を吸つて樂々と暮さう。蝶程樂ないゝものはない。どれ一つ蝶々の仲間入させて貰ひませう。」

と靜かに蝶の側へ行つて。

「もし蝶々さん〳〵一寸と起きて下さい。」

と小聲でいつて見ましたが。よく眠つて中々起きそうにもしませんので、そつと脊中へはい上り耳のそばで。

「もし蝶々さん少しお願したい事がありますから起きて下さい」と云ひますと蝶々はびつくり仰天何者が脊中へさわつたのだらふ。あゝうつかりつかれて眠つた間に又坊ちやんのあみにかゝつたかしら。と。思ひ乍らあたりを見ますと。やはり今迄の葉に止つて居ましたが。脊中に蟻が一匹居ました。

いつぞや。紫の小さい妹蝶が花に遊びつかれて。花壇の隅に眠つた時蟻が澤山來てとう〳〵さし殺されてしまつた事もありましたので。蟻と見てはびつくりし大急ぎ振り離して飛んで逃げやうとしますと蟻は。

「蝶々さん〳〵決して私はあなたを刺しは致ません。實は私は蟻がつまらなくて仕方がないので蝶々さんのやうにいつも奇麗な花の上で樂しく暮したいと思ひますどうか私をお仲間に入れて下さいませんか。」

と手をついて賴みますので。蝶もやつとまづ〳〵と小さい胸をなでゝ安心しましたが。

「蟻さんそれはとんだお考へ違いです。私共は決して〳〵樂しく暮しては居りません。それはあなたのやうにきたない土の上にこそ居りませんが。此花は奇麗だから少し休んで露でも吸ひませうと思つて羽を休めますと坊ちやんが網を持つて來てつかまつてしまい。之は奇麗だから標本にしやうなどゝ云つてピンで板へ打つけられてしまいますからうつかりゆる〳〵休む事も出來ません。又時にはうまく網を逃げ出し一生懸命うちへ歸らふと裏庭へ急ぎますとあの蜘蛛が大きな巣を作つて居てそれに引かゝらふものならそれが最期とうとうたべられてしまいます。決して〳〵はたから思ふ程らくなものではありません。蟻さんこそいゝお家はあるしだれもつかまへに來る人も者もなしそれに强い力を持つて居らして食べ物も澤山しまつてをありだしほんとーに仕合せではありませんか。他の者をうらやまずにやつぱり今のまゝでいらした方がようございますよ。」

と優しい眼に涙を流して話して聞かせました。がどうも蟻は蝶の親切な言葉に

從ふ氣になれず。

「それでは蝶さんもつまらない。何かほかのものに仲間入しませう。」

と云つてぶら〳〵出掛けてしまいました。

「蝶もいけないとすると何がいゝだらふ。」

と考へて居ます間にとう〳〵夜になつてしまいました。するとお池の叢て美しくびか〳〵光る螢がさも涼しさうにふわ〳〵と。水の上を行つたり來たり樂しさうに飛び廻つて居ます之を見た蟻は手を打つて喜び。

「あゝ螢だ〳〵あんな樂なものがあつたのに今迄氣が付ずに居たとは僕もよつぽどうつかりして居た。どれ一つ相談して今夜から早速一緒に飛び廻らふ。これは有難い〳〵。あゝもし螢さんや〳〵。」

と大聲に呼び立てました

螢は靜かな池の面にふわ〳〵遊んで居ます處へどこかで呼ばれますので。これはお憐のお光ちやんが來たのだらうと思ひ乍ら聲の方へ飛んで來ますとそこに

一匹の小さな蟻が居て、

「螢さん〳〵どうか私をお仲間入させて下さいませんかどこへでもお伴して行きますから」。

としきりに賴みました。之を聞いた螢は。

「蟻さんとんでもない事私共はこうしてたのしさうにして居ますものゝ短い命で少し寒くなれば今に死んでしまいます。それも壽命だけちやんと居る者は幾匹もありませんうつかりと光つて居やう者なら。團扇や箒ではたき落されて奇麗な籠の中に入れられ涼しいお縁側に掛けて置かれる迄は善ございますが。大事の〳〵命の露は時々臺所のおさんどんが邪慳に水道の水を吹つ掛けられるので其くるしさといつたらありません。これも二三日であとは日ぼしちやない水ぼしですもの。たのしいのらくだのと云ふのはほんの一時ですそれに引かへてあなたは長命もお出來になるしどんなによいか知れません。早くおうちへいらして皆樣とたのしくをくらしになる方がようございます。こ

うして居る中に誰かに見つかると大變、ではさよーなら。」

と又ふわ〳〵と向ふの岸へ行つてしまいました。

蟻はさて〳〵何になつてもらくは出來ないものかしら。けれど何かありそうなものたとしきりにうで組して考へて居ましたがやがて。

「あつた〳〵蚤がいゝ〳〵蚤はいつも柔かい蒲團の中にくるまつて晝はらくらくねられるし恐ろしい人間の寢た處へ出掛けておいしい血を吸ふのだからこんなうまい事はないどれ一つ蚤の處へ出掛けませう。」

と庭石傳ひ坊ちやんのお寢間へと急ぎました途中石につまづき緣側の釘にあたまをぶつけたり。敷居の溝へ落ちたりしましたが漸くの事で蚊帳の側まで來て見ますと　思つた通り可愛いゝ坊やんは柔かいおふとんの中に安々と眠つて居ますので蟻は大喜び。

「〆たぞ！〳〵之で漸くよい者になれるあしたかららくなものだどれ一つ此かや入つて」

をとそろ〳〵隅の方からもぐり込み〳〵とう〳〵眞つ白い毛布の上まで這ひ上り「之は中々よい心持ちだ　之だけで澤山まだお腹もすかないから坊ちやんを刺すのはあしたの晩にして今夜は一つらく〳〵寢ませう　あゝ今迄くたびれた」などゝ云ひ乍らよい心持でぐつすり寢みました

やがて翌日になり坊ちやんのお母さんが床をたゝみ乍ら

「をう〳〵坊やはゆふべ大變蚤にくわれましたね可愛そうに。さあ母さんが蚤をつかまへませうね」

とおつしやつて毛布を持ち出してお縁側へ行かれました　急に動いたので蟻はびつくり目をさましてあるき出しましたら。お母さんは

「まあ可愛そうに蚤許りぢやない蟻迄が居て惡い事」

と云つてつぶされてしまいましたとさ。何でも人をうらやむ者ではありませんのね。めでたし〳〵。

講習要目

●幼兒教育の理論及實際

第一篇　總論

第一章　幼兒教育の意義及範圍
第二章　幼兒教育の必要
第三章　幼兒教育の教育上に於ける位置及任務
第四章　幼兒教育の目的
第五章　幼兒教育の方法概論
第六章　一般教育法と幼兒教育方法との關係
第七章　誘導的教育の心理的基礎
第八章　幼兒教育の特色
第九章　幼兒教育の史的概見
第十章　保育法と教育學との關係

第二篇　遊戲的教育論

第一章　遊戲とは如何なるものぞ
第二章　遊戲の種類及其教育的價値
第三章　遊戲の發達と其教育法
第四章　經驗的遊戲の教育法（觀察音樂及談話）
第五章　模倣的遊戲の教育
第六章　運動的遊戲の教育
第七章　唱歌及唱歌遊戲の教育
第八章　技術的遊戲の教育（恩物論）
第九章　製作的遊戲の教育（手工及畫方）
第十章　思考的遊戲の教育
第十一章　勞役的遊戲の教育
第十二章　玩具研究

第三篇　躾方教育論

第一章　躾方の範圍及其任務
第二章　躾方の教育的理法
第三章　生活的躾方の教育
第四章　作法的躾方の教育

第四篇　幼稚園教育論

第一章　幼稚園とは如何なるものぞ
第二章　幼稚園の必要及其任務
第三章　幼稚園教育の効果（並に將來の幼稚園）
第四章　幼稚園の組織及編制
第五章　幼稚園の設備（建物及遊園）
第六章　幼稚園の設備（什器及其他）
第七章　幼稚園の經費
第八章　保育事項及其配當
第九章　保育日時及休日
第十章　保育の實際的一日（幼稚園職員と其活動）

第五篇　幼稚園教育論

第一章　幼稚園とは如何なるものぞ
第二章　幼稚園の必要及其任務
第三章　幼稚園教育の効果（並に將來の幼稚園）
第四章　幼稚園の組織及編制
第五章　幼稚園の設備（建物及遊園）
第六章　幼稚園の設備（什器及其他）
第七章　幼稚園の經費
第八章　保育事項及其配當
第九章　保育日時及休日
第十章　保育の實際的一日（幼稚園職員と其活動）

第六篇　結論

第一章　暗示の利用
第二章　幼兒の取扱方
第三章　命令及禁止
第四章　賞罰
第五章

●音樂

一　唱歌
　1　幼兒教育の材料となるもの
　2　保育者の練習のためのもの

二　樂曲
　注意　大意　保育用唱歌は新作ものを加ふる筈にて目下夫れ々々依囑作曲中なり。

●手工

一　手工の意義及範圍
二　手工の種類及其教授法
三　紙細工及其教授法
四　切拔、折紙、輾紙、厚紙細工
五　粘土細工及其教授法
六　粘土細工、陶器燒付、石膏細工
七　造花（初等教育を目的とせるもの）
　　慶祝細工（同前）
　　繪細工（同前）

明治四十三年七月一日印刷
明治四十三年七月五日發行
編輯兼發行者 東京市小石川區竹早町七二 和田直持
印刷者 東京市本所區番場町四番地 守岡功
發行所 東京女子高等師範學校内 フレーベル會

（毎月一日五日發行）
（明治四十三年四月廿八日第三種郵便物認可）

フレーベル館

營業課目

幼稚園用恩物
幼稚園用材料
幼稚園用机腰掛
幼稚園用運動具
幼稚園用遊戯具
幼稚園用繪畫類
幼稚園用玩具類
幼稚園用書籍類
幼稚園用諸表簿類
家庭教育資料
學校用品類

御一報次第定價表進呈

フレーベル館 新案玩具 謹製

幼兒繪がるた

正價五十錢
送料八錢

朴木製肉筆 六十枚壹組 說明書付
女子高等師範附屬幼稚園御考案 朴木製肉筆
優美雅尚。庶物教示と運動とを兼ぬ。多數の幼兒を造作なく一時に遊ばせるには之に如くものなけん。久しく品切の處上製出來。

組立積木

臺、屋根等附屬品のみ（インチ製）二拾錢
全部積木付四十錢
（和尺製）二割增

平常使用せらるゝ積木の中の平方體のみを以て電車或汽車等を組み立ていくら押してもこはれないでよく進行します。

恩物 ゴマ

六ケ入貼紙
五十枚付拾錢

女子高等師範學校の和田先生の考案です
色紙を剪つて色々混ぜて貼り之し廻しますと丁度明治ゴマの樣に奇麗な混色が出ます手指の練習と色の教示に興味ある材料です

シングルベルス

正價四十錢

革に鈴が澤山付いて居て馬の前當の樣になつて居る、之を首にかけると後に長く手綱がある、一人が馬になつて後から手綱を持つて駈ける兒童の喜んで運動すること非常なる米國品の型に依つて作つたものです。

印刷所 株式會社 凸版印刷所 本所分工場